

広瀬市長に ^{た い わ} 言い対話



タウンミーティング

報 告 書

市民の皆さんにおかれましては、平素より市政運営に多大なる御理解と御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、令和元年5月に第9代寝屋川市長に就任し、市政運営の方向性を示した所信表明の中で、「寄り添う力」、つまり市民の皆さんの御意見を聴く力の重要性をお示ししました。

この「寄り添う力」を具体化するために行ったのが“市長に本音で言い対話（たいわ）”タウンミーティングです。

各地域において、これからの寝屋川市のまちづくりに対する考えやビジョンを御説明するとともに、市民の皆さんと直接対話をさせていただくことで、地域の課題等について直に把握させていただいたところです。

今回のタウンミーティングでは、総勢403人の方に御参加いただきましたことに大変感謝しています。

今後も、「市民の生活を守る」ことを使命として、市政執行に臨んでまいりますので、市民の皆さんの御理解と御協力のほど、よろしくお願いいたします。



令和元年 11 月

寝屋川市長 広 瀬 慶 輔

目 次

I “市長に本音で言い対話“の開催について	1
1 開催日程.....	2
2 参加対象者	2
3 いただいた御意見の活用.....	2
4 参加人数等	2
II 今後のまちづくりについての市長の発言	4
1 寝屋川市の特徴と課題について.....	5
2 自主登校制度について	5
3 乗合いワゴンについて.....	5
4 公共サービスのターミナル化について	6
5 人口の年齢構成のリバランスについて	7
III 各タウンミーティングでいただいた御意見とその回答など	8
1 西南コミュニティセンター	9
2 西コミュニティセンター.....	17
3 南コミュニティセンター.....	26
4 西北コミュニティセンター.....	36
5 東コミュニティセンター.....	49
6 東北コミュニティセンター.....	62
IV 参加者アンケート結果	80
V 参考資料	84
1 “市長に本音で言い対話”PR用チラシ	85
2 当日参加者にお配りした資料	86

Ⅰ “市長に本音で言い対話”の 開催について

1 開催日程

開催日時	開催場所	該当小学校区
8月8日(木)	西南コミュニティセンター	啓明・成美・和光・神田
8月22日(木)	西コミュニティセンター	点野・西・桜・池田
8月29日(木)	南コミュニティセンター	木田・楠根・南・堀溝
9月5日(木)	西北コミュニティセンター	木屋・石津・北・田井
9月12日(木)	東コミュニティセンター	中央・東・明和・梅が丘
9月19日(木)	東北コミュニティセンター	第五・三井・国松緑丘・宇谷

※ 開催時間は、全て午後7時から1時間程度

2 参加対象者

各コミュニティセンター地域内にある4つの地域協働協議会に属する町内に居住する市民(通勤・通学者含む)。 ※ 他のコミセン地域でも参加可能。

3 いただいた御意見の活用

市民の皆様からいただいた貴重な御意見は、関係部署で情報共有し、対応可能な案件については速やかに解決に向けて対応するとともに、今後の市政運営の参考とさせていただきます。

4 参加人数等

開催日時・場所	参加者小学校区	参加人数・合計
西南コミュニティセンター (8月8日開催)	啓明	7人
	成美	17人
	和光	8人
	神田	14人
	その他・無回答	8人
		54人
西コミュニティセンター (8月22日開催)	点野	21人
	西	14人
	桜	9人
	池田	17人
	その他・無回答	6人
		67人

開催日時・場所	参加者小学校区	参加人数・合計	
南コミュニティセンター (8月 29 日開催)	木田	10 人	42 人
	楠根	1 人	
	南	17 人	
	堀溝	10 人	
	その他・無回答	4 人	
西北コミュニティセンター (9月5日開催)	木屋	18 人	85 人
	石津	7 人	
	北	37 人	
	田井	11 人	
	その他・無回答	12 人	
東コミュニティセンター (9月 12 日開催)	中央	12 人	69 人
	東	29 人	
	明和	11 人	
	梅が丘	7 人	
	その他・無回答	10 人	
東北コミュニティセンター (9月 19 日開催)	第五	24 人	86 人
	三井	16 人	
	国松緑丘	20 人	
	宇谷	6 人	
	その他・無回答	20 人	

※ 総勢 403 人の市民の皆様に参加をいただきました。



II 今後のまちづくりについての 市長の発言

タウンミーティングの冒頭で、広瀬市長が今後のまちづくりについて発言した内容を要約して記載します。巻末に添付している当日配布資料も合わせて御覧ください(86 ページ参照)。

1 寝屋川市の特徴と課題について

- ・ 寝屋川市は、縦約6キロメートル横約4キロメートルの大きさしかありません。これは、関西国際空港の人工島をイメージしてもらえればと思いますが、この狭いまちの中に 23 万人を超える市民が暮らしています。
- ・ 人口の年齢構成のバランスに少し偏りがあり、シルバー世代の方の人口が多い特徴があります。つまり、多く住まれているシルバー世代の方が、不便を感じないまちをこれから作っていく必要があります。
- ・ 人口構成のバランスを整えるためには、若い子育て世代の皆さんに寝屋川市に来ていただく施策も考えないといけません。

2 自主登校制度について

- ・ 先日、自主登校制度についてNHKの取材を受け、放映されました。災害時や事件が発生した場合に、学校・幼稚園・保育所を休校にするかどうかの判断基準に曖昧な部分があるため、働いている保護者の方が子どもを学校に行かせるかどうか判断に迷う場合があります。
- ・ そこで、新しい制度として、自主登校制度を実施します。災害等が発生した場合、原則は臨時休業となりますが、家庭の事情もあり保護者の方が学校に連れてきた場合、学校でお子様をお預かりする制度です。
- ・ これは、大阪府内で初めての制度となり、しっかりと議論した上で、2学期を目途に導入します。

3 乗合いワゴンについて

- ・ 大阪府内の中でもシルバー世代が多い寝屋川市ですが、これから 10 年先を見越してしっかりと準備をする必要があります。
- ・ 現状は、京阪電車とJR学研都市線が通っています。加えて京阪バスと、市がお金を出して運行しているタウンくるが複数の路線を走っています。

- ・ 議会審議を経て予算が付けば、この秋から乗合いワゴンという制度を実験導入します。これは、70 歳以上の方や妊娠中の方などを対象に電話一本で家まで乗合いワゴンが迎えに来る制度です。
- ・ このワゴンは、小学校区ほどの地区内を自由に走りますので、例えば買い物に行きたい場合は、地区内のショッピングセンターまでお送りします。帰りも家までお送りします。
- ・ 駅に行きたい場合は、その地区内にある、駅に向かう路線バスが止まるバス停までお送りします。
- ・ 大動脈である第1の公共交通網が路線バス、ちょっと細い血管として第 2 のタウンくる、毛細血管として地域にはりめぐるのが乗合いワゴンです。乗合いワゴンは、無料です。
- ・ この乗合いワゴンのサービスを 12 月頃を目途に、まず3つの地域で実験導入させていただきます。ここで利用者の皆様から色々な御意見をいただき、バージョンアップを図って、市内各地区に令和3年度に約 20 台の乗合いワゴンを整備させていただく予定です。

4 公共サービスのターミナル化について

- ・ 現在、本庁、保健福祉センター、市民会館など市内に様々な施設が分散されています。例えばある手続をする場合に、本庁舎と福祉センターと両方行かなければならない場合があります。
- ・ 昔は施設の分散は当たり前でした。例えば、東側に市民会館を作れば、西側に総合センターを建てるということ、つまり不公平にならないように色々な施設を対角線上に配置するということが行われてきました。これは、公共交通網がまだ完全に整備されていない時代の話です。
- ・ 公共交通網が整備されている現在では、皆さんの手続に必要な公共のサービスは、駅周辺に機能を集約していく、公共サービスのターミナル化を進めます。全ての手続が駅周辺で完結できるようにする仕組みです。

5 人口の年齢構成のリバランスについて

- ・ 寝屋川市はシルバー世代の方の割合が多い。昭和 35 年に人口5万人だったのが、15 年後の昭和 50 年には 25 万人を超えました。この時期に転入された多くの子育て世代の方が 70 歳代、80 歳代になりつつあります。
- ・ そこでもう一度子育て世代の方に、大阪市にも近く便利な学研都市沿線の地域に来ていただくことで、年配の方が多い人口構成を若い人に来ていただいでリバランスしていきます。
- ・ こういった施策をしっかり行い、寝屋川市に住みたい、住んで良かった、と言われるまちづくりを進めることが我々行政に関わる者の使命だと考えています。



Ⅲ 各タウンミーティング でいただいた御意見と その回答など

1 西南コミュニティセンター

日時:令和元年8月8日(木)午後7時～8時 15 分

場所:寝屋川市立西南コミュニティセンター

参加人数:54 人

1

参加住民の皆様と広瀬市長の意見交換

京阪電車の増便について

京阪電車の大阪方面への区間急行の本数は、過去 20 年間減り続けています。特に現役世代が利用する 18 時以降は顕著です。ぜひ市長から京阪電車へ増便を要望してほしい。



広瀬市長

- A. 人口が減少する状況では、便を減らされることになるので、学研都市線沿線に若い世代に来ていただくだけでなく、京阪沿線も含めて、たくさんある空き家を民間企業の活力も活用しながら、新しい世代に来ていただくことも考えていきます。

防災公園の整備について

- ・ 避難所をもっと増やして、地域の皆さんが安心できるようにしていただきたい。
- ・ 市営高柳住宅の跡地について、地域の要望である防災公園を整備してほしい。



広瀬市長

- A. 防災の拠点は必要だと考えています。西側の地域については、宅地開発が先行した経緯があり、防災の拠点となるような場所がない状況です。
市営住宅の跡地を西側の防災の拠点として整備することは、必要だと思っています。

図書館の整備について

中央図書館が機能不全に陥っている現在、萱島駅周辺への図書館の整備についてどのように考えていますか。



広瀬市長

A. 中央図書館がある総合センターではアスベストが検出され、その除去と復元には数十億円程度の金額がかかると言われています。一方で建て替えとなると100億円を超える資金が必要と言われています。今後、議会の意見も踏まえながら方針を決めなければなりません。

今ある臨時の図書館では、狭くて図書館の代替機能を果たしているとはいえない状況です。新たな方針が決まるまで、代替の図書サービスについては内部で検討を行っています。

萱島、香里園、寝屋川公園の駅前に図書館が欲しいという意見もあります。図書サービスを分散するのが良いのか、集めてターミナル化をするのが良いのか、それぞれ皆さんの御意見があると思います。

多くの市民の方の利便性を考えて、議会からの意見が出た後、秋を目途に、方針を皆さんにお示ししたいと思っています。

友呂岐緑地と神田幼稚園跡地について

- ・ 萱島駅から寝屋川市駅にかけての友呂岐緑地の更なるクオリティ向上のため、サクラプロジェクトの友呂岐緑地版を進めてほしい。
- ・ 神田幼稚園跡地の有効利用について、市が一方向的に進めるのではなく、地域住民と市がよく話し合って、双方の意見を出し合いながら、方向性を決めてほしい。



広瀬市長

A. 友呂岐緑地については、地盤の固さなど、課題がいくつかあって進んでいない状況です。

友呂岐緑地は他にはない水路沿いの長い公園としての特徴がありますので、計画的にしっかり整備をしていきたいと考えています。

総合センターの機能がダウンしている状態で、シルバー世代の方に様々なサークル活動を楽しんでいただくためには、活動するためのスペースも必要になってくると思います。公共施設の在り方を市全体の中でしっかり考えて議論させていただきます。

中央図書館の代替機能等について

- ・ 休日に学校の図書館を地域に開放することはできませんか。
- ・ 乗合いワゴンの普段の置き場所はどこですか。タクシーと競合しないか心配です。



広瀬市長

- A. 学校の図書館の活用については、いいアイデアだと思います。
乗合いワゴンについては、地域内を巡回するので、タクシーとは競合しません。

萱島駅周辺の整備や神田幼稚園跡地の活用について

- ・ 寝屋川市駅や香里園駅に比べて萱島駅周辺は整備が遅れている。
- ・ 大学と連携するなどして若い人を育て、地域を活性化させるために神田幼稚園の跡地利用を考えてほしい。



広瀬市長

- A. 萱島地域については、以前に駅前ロータリーの小さな再開発はありましたが、今後もしっかりと御意見を聞かせていただききたいと思います。
若い人たちに来ていただくためには、どうすればいいか。例えば教育についても在り方をしっかり考えて、現在、教育大綱の見直しに取り組んでいます。

乗合いワゴンの利用者等について

- ・ 私は視覚障害者なのですが、乗合いワゴンの利用者は、妊婦や高齢者というお話でしたが、ぜひ障害者も利用できるようにしてほしい。
- ・ 以前は総合センターで障害者卓球を楽しんでいましたが、閉鎖になり、活動できる場所を確保してほしい。



広瀬市長

- A. 総合センターに残っている卓球台については、使用できるかどうかも含めて、早急に調べて対応したいと思います。
乗合いワゴンについては、視覚障害の方も使っていただけるように考えたいと思います。

危険な道路と図書館機能について

- ・ 交通量が多い中神田のサンディ前の道が狭い。お年寄りが横断するために、押しボタン式の信号があれば便利だと思う。
- ・ 中央図書館が閉館している中、市内の色々な施設で本の取寄せ、返却はできませんか。また自習室についても、コミセンなど今ある施設を活用して利用できるようにできませんか。



広瀬市長

- A. 本の取寄せについてはすごく良いアイデアで、現在検討中です。図書館の建物は使えませんが、機能を復活させるため、市内の拠点に本をお届けして利用していただくことなどを検討中です。
- また、公共施設についても既存の施設を最大限活用するという方向で検討しています。

幹線道路などについて

- ・ 乗合いワゴンはいいい話ですが、幹線道路の整備をきちんと行ってほしい。
- ・ 成美校区は駅にも近くて良い場所だが地価が高い。道が狭くて大きな車が入れない。マンションなどを建てられる地域にしてほしい。



広瀬市長

- A. 地域にマンションを建てられるようにするなど都市計画の変更は、市の権限で可能です。ただし、今まで2階建てしか建てられなかった土地に、高層のマンションが建てられるようになると、地価が上昇します。地価が上昇すれば固定資産税も上昇するので、その土地に長く住み続けたいと思っておられる方は、住むのが難しくなります。
- そして、民間の事業者も参入してきますから、まちの開発が一気に進みます。つまり、都市計画の変更は、劇薬ですので、この劇薬をどこに使うかは、しっかり考えてまちづくりを行う必要があります。

幹線道路の整備について

乗合いワゴンを走らせる前に、一方通行の解消など、幹線道路の整備をしっかり行ってほしい。



広瀬市長

A. 新しい道を今から整備するのは困難ですが、一方通行の解消については、地域の意見を聞かせていただいて議論したいと思います。

高齢者を元気にさせる取組について

独り暮らしのお年寄りの方に電話をすることで、この方がすごく元気になるので、そういう施策に取り組んでほしい。



広瀬市長

A. すごく良いと思います。お年寄りも外に出て色々な方とお話をしていただきたい。
将来的に乗合いワゴン地域に1台と考えていますから、利用するには待ち時間ができますが、その間に色々な方とおしゃべりして楽しんでいただきたいと思います。

公園と中学校給食について

- ・ ボール遊びができる公園はないのでしょうか。
- ・ 中学校給食の改善をお願いしたい。



広瀬市長

A. 公園でのボール遊びは、なかなか難しい課題でもありますが、ネットを張るなど何らかの解決策を考える必要がありますので、少し時間をいただきたい。
就任直後に生徒さんから給食に関するお手紙をいただきましたので、自身のツイッターで給食に関するアンケートを行いました。その結果、77%の方が「美味しくない」と回答しました。
担当課には早急に改善を指示しました。メニュー、味、温かさの改善はできますので、2学期を楽しみにしておいてください。

子ども食堂への補助について

和光校区では子ども食堂を平成 28 年から行っていて利用者も多いです。今後、朝御飯も提供したいので、その活動を支援してほしい。



広瀬市長

- A. 秋田県は、全国的にも学力が高くて有名ですが、その中でも朝食を食べる率が高いのではと話題になっています。ですから、教育の在り方を考える上でも、そういう取組は必要だと思いますので、市ができる範囲で協力させていただきます。

市が開催する行事について

市が行う行事について、市の中心部で行われるのは致し方ないと思いますが、プールの様に各学校で開催できる行事など検討できませんか。



広瀬市長

- A. 地域にある学校を活用したイベントも考える必要があるかもしれません。寝屋川市はもうすぐ市制施行 70 周年(令和3年)を迎えますので、地域の多くの皆さんに関わっていただくようなイベントを検討しています。



ねやがわプールのズ(ねやぷ〜)

2

地域協働協議会からいただいた主な御意見とその回答

空家対策について

街中の空家や空地が放置されることなく、新しい住宅となり、新しい住民が移り住み、既存のまちでも年齢のリバランスが図れるような施策に取り組んでほしい。



広瀬市長

- A. 空き家の対策として、現在は、管理不全な空き家等に対する除却補助を行い、除却後に新しい住宅を建てるなどの土地利用が必要であることから、新しい住民を呼び込むことにつながっています。
- 今後とも、新しい住民に移り住んでいただけるように、空き家の活用など、新たな取組を検討し、既存のまちでも年齢のリバランスが図られるよう進めてまいります。

避難所としての体育館の設備について

災害時、成美小学校の体育館へ避難した際、トイレや空調機の設備などが心配です。



広瀬市長

- A. 体育館に避難した際、既設トイレが使用できなくなった時のために、組立式簡易トイレを備蓄しています。
- また、昨年のおおさか府北部地震や台風の教訓を踏まえ、避難所運営物品の配備として、各小学校に授乳室や更衣室、トイレ等に使用するために、プライベートスペースを確保するプライベート TENT を配備するとともに、停電対策のためにバールン型灯気器の配備、暑さ対策を講じるために、大型扇風機の配備を予定しており、避難所物品の充実を図ってまいります。

通学路の安全対策について

成美小学校の子どもたちが利用する通学路について、歩道がないなど危険な個所が多い。子どもの安全を第一に考え、すぐに対応してほしい。



広瀬市長

- A. 路側帯や横断歩道のカラー舗装の施工を始め、看板やカーブミラー、防犯カメラの設置を行うなど、通学路の安全確保に努めております。今後とも、関係部署が連携して通学路の安全確保に努めてまいります。

2 西コミュニティセンター

日時:令和元年8月 22 日(木)午後7時~8時 15 分

場所:寝屋川市立西コミュニティセンター

参加人数:67 人

1

参加住民の皆様と広瀬市長の意見交換

空き家対策と通学路について

空き家対策についてどのように取り組まれていますか。また、子どもたちの通学路について、他人の土地を通っている状況もありますが、市は把握していますか。



広瀬市長

- A. 持ち主がわからない空き家や賃貸用の空き部屋も含めて、市内には多くの空き家があります。居所不明の空き家に関しては、安全面を考慮して整理をしていく必要があると思います。また、持ち主がいるけれども空き家になっている家は、市の持っているデータを活用しながら、民間企業の力も借りて空き家を流動化させ、人口増や地域の活性化につながるように考えていきたいと思います。通学路については、状況を確認させていただきます。

技能職員の増員について

この時期、学校では雑草がたくさん生えるので、子どもが学ぶ環境を維持するためにも、学校の技能職員の人数を増やしてほしい。



広瀬市長

- A. 学校の環境整備には取り組んでいきます。現在の技能職員は各学校に1人ですが、これ以外に市には8人の環境整備班を配置しています。この8人は、各学校に随時派遣して整備を行っています。ただし、各学校の要望に応えられているかどうかは確認します。

自治会の存続について

私の自治会では、173 世帯中約 40 世帯が自治会に加入していない。「自治会って何ですか？」と言う方もいるので、市としても自治会加入の支援をしてほしい。



広瀬市長

- A. 自治会に限らず地域の様々な活動に関して、地域協働協議会を始め、市が色々とお願いをしてきました。この自治会等の在り方について、今後 10 年、20 年と維持できるものなのかの議論を既に始めています。地域活動をどう存続させていくか、行政の役割とどう分担していくかを議論する必要があると考えています。

保育所(待機児童)の問題について

私が子どもを入りたい保育所は、もう枠がなくて順番待ちの状況です。問題なのは、自営業とかで週に何日も働いていない親の子どもは0歳から入所できます。そうして入所した子どもは5歳まで入り続けることができるので、不公平です。本当に必要な方が入れるように、毎年見直しを行ってほしい。



広瀬市長

- A. 本当に入所の要件を満たしているかどうか、しっかり確認できる方法を考えていく必要があると思います。ただ、毎年入所者を見直すことは、安定的に働いている方が働けなくなるというデメリットもあると思いますので、何がベストなのか考えたいと思います。

準工業地域の指定について

私の家は準工業地域の中にありますが、家のすぐ近くで工場の建て替えが行われ、大きな建物が建設されています。周りを工場で囲まれ、日光が入らなくなるので対応できませんか。



広瀬市長

- A. 都市計画区域について、市は計画の変更を行う権限を有していますが、準工業地域を住居地域に変更するのは、実際には難しいと思います。

進学する中学校を選択できる仕組みについて

小学校から中学校に進学する時に、地域の中学校にやりたいスポーツクラブがない場合に、地域を越えて、自分が行きたい中学校を選べる仕組みを作してほしい。



広瀬市長

- A. 現在は小中一貫教育の観点から、中学校区(1つの中学校と2つの小学校)の中で小学校を選択できる仕組みはありますが、個人的にはもう少し緩和してもいいかなと思っていますので、教育委員会とも相談したいと思います。

水が流れていない水路について

春日町の水路の水が流れていないために、蚊が大量に発生して大変です。水路の水が常時流れるようにしてほしい。



広瀬市長

- A. 用途によって様々な水路があります。田んぼに水を引く時だけ流れる水路もありますし、幹線の水路は常に水が流れていたりします。春日町の水路がどのような役割を持っているかによって、流れ方が変わってきます。
水路の掃除等については、積極的に考えていきたいと思います。

地域協働協議会の在り方について

地域の役員が地域協働協議会の役員も兼ねている状況で、後を継ぐ人材もなかなかいない状況です。今後の地域協働協議会の在り方をじっくりと考えてほしい。



広瀬市長

- A. 地域協働協議会も含めて今後 10 年先を見越した、地域の活動や行政と地域の在り方については、しっかりと考える必要があると認識しています。

中央図書館に残された図書について

総合センターの図書室が閉鎖になって1年以上になります。図書室には、貴重な本が残ったままになっていると思うのですが、今後の計画について教えてほしい。



広瀬市長

- A. 総合センターからは、毒性の強いアスベストが検出されています。これを除去するには、数十億円のお金がかかります。建て替えるとなるともっとコストがかかってしまいます。この秋には、議会からの報告を受けて、方針を決定したいと考えています。

今ある本もアスベストに汚染されていますので、クリーニングする必要があります。臨時の図書館も十分な機能を有しているとは言えない状況ですので、現在、代替案を検討しています。図書館の機能を復活させるための方策を考えていますので、もう少しお待ちください。

小中学校の教育環境について

- ・ 人口急増期に小中学校の校舎を建て、その後建て増しを繰り返しているため、あちこちが傷んでいます。
- ・ 寝屋川公園駅周辺を再開発する案の中で、2つの小学校と1つの中学校をなくして、小中一貫校にするという計画が出されています。保護者や地域からは、今の学校を残してほしいとの声もあります。どこに住んでも同じ教育を受けられるようにしてほしい。
- ・ 今の学校は、テストが多すぎます。全国学力テストの結果を公表することは、子どもたちの心を傷つけることになるのではと心配です。



広瀬市長

- A. 教育の環境については、校舎の在り方も含めて、きっちり整備をしていく必要があると思っています。ただし、最優先すべきは、教育の中身であり、子どもたちに生き抜く力、考える力をしっかりと身に付けてもらいたいと思っています。小中一貫校については、改めてしっかり説明をさせていただきたいと思います。

寝屋川市を全国に発信していく展望について

地域を発展させていくためには、民間企業の力を活用しながら、収益を上げることも必要だと思います。寝屋川市を発展させ、先進市として全国に発信していく展望を教えてください。



広瀬市長

- A. 先日NHKのニュースで見て頂いた方もいるかもしれませんが、新しい取組である「自主登校園制度」が取り上げられて、マスコミ各社のニュースとして流れました。様々な新しい取組をしっかりと発信していくと、寝屋川市を全国にPRすることができます。
- 市の職員の働き方改革の一環で、コアタイムなしのフレックスタイム制も導入します。これも新聞各社に取り上げられて、全国で話題になっています。
- このように寝屋川市は先進都市であるというイメージを全国に発信し、攻めの姿勢で寝屋川市の発展に尽くしたいと考えています。

今後の市役所の仕事の在り方について

先日、市長がツイッターで、行政の仕事の中には「今必要なもの、これから必要となるもの、今後必要なくなるもの」等の考えを発信されていましたが、それについて教えてください。



広瀬市長

- A. 「今必要なもの、これから必要となるもの、今後必要なくなるもの」は、行政が今後仕事を進めていく上で必ず考えなければならない問題です。
- 今必要なものでも将来必要なくなるものがあるかもしれません。例えば、「窓口業務」は、近い将来スマートフォンなどを活用すれば、お年寄りや一部の方を除いて、ほとんど必要なくなるかもしれません。
- そういう将来の状況をしっかり見据えて、例えば市の職員の採用も考えていかなければなりません。
- 職員がやる仕事、他にやってもらう仕事、AIなどが取って代わる仕事などを考えながら、市役所の全ての事業について、現在見直しを行っていますので、今後の市政運営にご期待ください。

猫の去勢について

市から猫の去勢手術の補助をいただいて活動していますが、年度の早い段階で予算の枠をオーバーしてしまい、2月や3月は去勢ができません。そうすると、4月、5月に子どもが生まれて、またお金がかかってしまいますので対応できませんか。



広瀬市長

- A. 寝屋川市は、この4月に中核市になったことで、府立の保健所が市立の保健所となりました。様々な権限を持った保健所が市の組織になったことで、今後はスピード感を持って様々な問題に対応できるようになります。予算については、保健所の所長と検討させていただきます。

地域協働協議会で行うキャンプについて

夏休みに地域の子どもたちにキャンプ体験をしてもらうために、野外活動センターを利用させてもらっていますが、一般利用と同様の申込みのため、抽選に外れる可能性があり、直前にならないと日程の確定ができない状況です。地域協働協議会からの申込みについては、優遇してもらうことはできませんか。



広瀬市長

- A. 市役所には様々なサービスがありますが、できる限り柔軟に対応できるようにしていきたいと考えています。ただし、他の利用者との不公平感がないようにする必要はあります。その辺りのご理解が得られるのであれば、改善の余地はあると思いますので、少し検討させていただきたいと思います。

図書館の在り方について

小中学校でもっと学校図書館を活用した授業を行ってほしいのですが、寝屋川市ではまだそこまでの環境が整っていません。各小中学校に図書館司書を1人ずつ配置してほしい。



広瀬市長

- A. 図書館の機能の充実については、しっかりと考えたいと思っています。子どもたちの考える力を本を通じて高めていくことは重要だと思っています。図書館の在り方については、これから力を入れて考えていくことになると思います。

団地のエレベーター設置について

三井、明德、梅が丘等の各団地にエレベーターを設置してほしい。もちろん事業主体は、大阪府や UR なので、市が直接は難しいとは思いますが、働きかけをしてほしい。



広瀬市長

- A. 団地のエレベーターについては、市からも要望しており、大阪府の方で順次段階的に設置が進められています。令和2年度には、仁和寺、点野の団地について工事着工の予定と聞いています。

小中一貫教育について

小中一貫校の設置について、小学校区単位の説明会を開催してほしい。また、現在行っている、教育委員会と市民団体の教育懇談会を今後も継続発展してほしい。



広瀬市長

- A. 四中校区や寝屋川公園周辺の校区の皆さんとは、何度もお話をさせていただきましたが、小中一貫校の話をして全ての校区でお話しても、なかなか関心を持っていただけないところもあるかもしれません。
ただし小中一貫校について、どういう内容の議論が行われてきたかについては、市民の皆さんにもお伝えすることは必要かもしれません。

地域協働協議会について

地域協働協議会について、会議や仕事が増えて担い手がない。もうなくてもいいのではないか。



広瀬市長

- A. 地域の担い手について、退職等で団塊の世代が地域に入ってきたこれまでの10年と、新しい世代が入ってこないこれからの10年では、全く状況が異なります。この問題については、本気で考える必要があると考えています。

2

地域協働協議会からいただいた主な御意見とその回答

桜の苗木について

点野校区地域の国道 1 号線隣にある用水路沿いに桜並木があります。この並木は、植栽してから約 70 年になり、所々、弱っている木が目立つ様になりました。地域としましては、人口減少対策の一環として、市の木でもある「桜の苗木」を無償提供してほしい。



広瀬市長

- A. 幹線用水路の管理者は、市下水道事業課であるため、新規で桜(樹木)を植樹する場合は、管理者の許可が必要となりますが、桜の苗木の無償提供については、大阪府緑化樹配付事業を活用することにより可能です。ただし、各年度の配付本数に限度がありますので、数年に分けて配付となります。

幹線水路沿いの桜(約 260 本)については、植樹した樹木が大きくなり水路側へ傾いたり、老木化に伴う樹勢の低下による倒木の恐れや樹根の影響による護岸の損傷などが懸念されます。昨年9月の台風 21 号でも多数の桜が倒木しており、水路機能の維持(流水確保・護岸機能の保全)の観点からは、幹線水路のような狭小な水路法面への樹木の植栽は好ましくありません。

そのため、下水道事業課では水路機能に影響がある場所への樹木の植樹は原則認めていませんが、当該地の桜は約 70 年前に植樹された経過があり、地元として植替えのための「桜の苗木」の提供を求められていることから、植樹場所の確保、現存する桜の撤去、桜の維持管理区分(地元・市)、上述した水路機能の維持など、様々な課題があり協議が必要と考えております。

京阪バスの増便等について

点野校区地域の京阪バスのインフラについて、タウンくるが運行されておりますが、乗車時間が長すぎるなど課題もあるため、大日から摂南大学まで運行されている直通バスを利用して、1 時間に 1 本で結構ですので、往路若しくは復路にて、国道 1 号線の「点野団地」「仁和寺団地」経由で運行してほしい。



広瀬市長

- A. 路線バスの路線の見直しについて、京阪バスと協議を行ってまいります。

なお、仁和寺地域に、公共交通機関を補完するものとして、電話一本で無料で利用できる「乗合いワゴン」の実験導入を行い、シルバー世代の方や妊婦の方を対象に、公共交通の利用促進を図ってまいります。

避難所について

大規模洪水時の避難場所(アルカスホール)の見直しと大規模災害時の一時的避難場所を検討してほしい。高齢者が多く、アルカスまで行くことが困難なため、代替避難場所として、自治会近隣の大型事業所を一時的緊急避難場所とするための交渉を進めてほしい。



広瀬市長

- A. 平成 25 年度から内閣府(防災担当)では、安全な場所と空間を確保するために垂直方向に避難する垂直避難(垂直行動)を勧めています。このような考えのもと、本市では洪水時の指定緊急避難場所として、アルカスホールを含め、57 か所を指定しております。葛原地域では、西コミュニティセンター、西小学校、点野小学校などへ垂直避難してください。

浸水した場合の垂直移動による避難のために、公共施設による垂直避難のみならず、大型事業所などとの交渉を進めてまいります。



3 南コミュニティセンター

日時:令和元年8月 29 日(木)午後7時~8時 10 分

場所:寝屋川市立南コミュニティセンター

参加人数:42 人

1

参加住民の皆様と広瀬市長の意見交換

災害に備えた各種団体との連携について

災害に備えて、市内に所在する業界団体と提携する必要があると考えます。

例えば、緊急時に食料提供をしてもらうため、コンビニ協会と提携することや、建設機材(ショベルカー、ダンプカー等)を所有する会社に対して市内を地域ブロックに分けて、それぞれ出動してもらえよう、建設協会と提携することなどを考えてほしい。



広瀬市長

- A. 各団体との提携は、今後していかなければならないと考えています。
建設機材については、最近は自社所有ではなく、リースで借りている会社も多いため、緊急時にどれだけの台数を確保することができるか、管理監を中心に考えていきたいと思っています。

堀溝サービス窓口の在り方について

萱島シティ・ステーションの堀溝サービス窓口は堀溝・河北地域の拠点となるものであるため、もう少し行政機能をグレードアップしてほしい。



広瀬市長

- A. 現在、行政サービスの在り方について検討中です。窓口業務については市役所に来なくても、シルバー世代の方が各種サービスを受けることができるようにできないかなどを考えています。今後、公共サービス・公共施設の在り方が問われてくるため、その中で検討していきたいと思っています。

乗合いワゴンについて

イオンモール四條畷の利用者から、運転免許証を返納したため、萱島からイオンに通うことが難しくなったと聞いたことがあります。萱島からイオンに行けるように対策をしてほしい。



広瀬市長

- A. 京阪バスについては、増便、ルート増設の要望の声を多くいただいておりますが、京阪も利益が出ない対応については難しいというのが現状です。
- 京阪バスが撤退した地域等に、市が京阪バスに要望して、タウンくるを走らせています。そのようなタウンくるの運行には市から年間約9千万円の税金を補填していますが、利用率は上がっていない状況です。
- 乗合いワゴンは、区域にある主要路線のバス停まで直接行きますから、第3の公共交通機関として利用していただきたいと思っています。
- 市がやれることはできるだけやりたいと考えていますが、全ては難しいため、柔軟にできる方法を共に考えていきたいと思います。

萱島駅前の整備等について

- ・ 萱島駅にも駅前広場をつくってほしい。
- ・ 萱島自治会館の建物がそのままになっているため、市の図書館などの様々な用途で活用してほしい。



広瀬市長

- A. 萱島のまちづくりが若干遅れているのでは、とのご指摘があります。萱島の主要な路線である萱島讃良線は、都市計画道路の重点路線と設定しています。対馬江大利線の整備が終われば、重点路線の中から選定し整備していきます。
- 自治会館については、まちづくりセンターに機能を変更しましたが、今後ターミナル化ということで、全ての公共施設の在り方の再検討や公共サービスの集約化を行っていきます。
- 寝屋川市で一番大きな図書館がある総合センターも、現在使えない状態になっています。また、現在、人口が一気に増加した時に整備した公共施設が耐用年数を超えており、これらを含めて全ての公共施設の在り方を見直します。

小中一貫校について

小中一貫校をつくるため、多額の予算がその地域に投入されると思われますが、税金を投入するに当たり、各地域への分配についてはどのように考えていますか。



広瀬市長

- A. 駅前などの再開発を行うと、他の地域の方から不公平ではないかとの御意見をいただくことがあります。この点については、市内全体のバランスを考えてまちづくりを行う必要があると考えています。

若い世代の方に寝屋川市を選んでもらうためには、まちのブランド化が必要です。教育については、ハード面だけでなく教育の在り方、いわゆるソフト面も重要です。小中一貫校はそのためのメインアイコンとして位置付けています。

来年4月に市の教育大綱を変える予定です。寝屋川市で教育を受けたい、子育てをしたいと思ってもらえるような教育に変えていかなければなりません。考える力を養えるよう、小学校のカリキュラムから見直しを行います。

自然災害への対策について

大雨、洪水への対策について、短時間にどのくらいの雨が降ると危ないのか、市ではどのように想定していますか。



広瀬市長

- A. 1つ目は、瞬間的な豪雨についてです。寝屋川市では、水害で堤防の決壊はほとんどないと想定しています。可能性があるのは内水氾濫、いわゆる下水がうまく流れずにオーバーフローするというような状況に注意しなければなりません。

2つ目は、台風のように長時間の雨が降り続く場合です。1時間当たりの雨量が少なくても、水路関係がオーバーフローする可能性があります。

一級河川寝屋川においては桜木町の水門が大きな役割を果たしています。平常時は水門を閉じ、寝屋川導水路から、桜木町のポンプ場に水を引き込み、寝屋川にくみ上げて水を浄化しています。雨量が多い場合は、水門を開放し、寝屋川の水を寝屋川導水路へ排水しています。そのほか、打上川治水緑地を活用するなどして、寝屋川上流の治水を行っています。浸水対策については、最優先に行っているところです。

水路の改修について

自治会の中に11号水路があり、改修事業が今年度から行われるということで大変喜んでいる。引き続き、改修を進めてほしい。



広瀬市長

- A. 水路の改修工事は極めて重要と考えており、順次行っています。寝屋川市は水田が多く、水路の数、総延長が大阪の中でも特に多く長いため、全ての水路の修繕は時間がかかりますが、しっかり行っています。

通学路の交通安全対策について

堀溝地区の終日車両通行禁止となっている道路について、登校時は見守りのボランティアもいるため、問題ないが、下校時は見守りがいないため、車両が通行する抜け道となっており、児童が心配である。

警察にもその旨を伝えているが、年2回程午前中に見回りに来てくれるだけで効果が薄い。

細い道をかなりのスピードで車両が通行していくため、危険である。安全対策を講じてほしい。



広瀬市長

- A. そういった通学路については、市の教育委員会も把握しているはずです。正確な場所については、確認させていただきます。

修学旅行の行先について

中学校の修学旅行の行先に広島がなくなったのはなぜですか。枚方市の中学校は広島に行っていますが、寝屋川市が行かなくなったのは、費用がかさむからと聞きましたが、本当の理由を教えてください。



広瀬市長

- A. 現在、保護者からの希望もあり、子どもたちが修学旅行の行先をいくつかのコースから選定できるようになっています。もし子どもたちから平和の勉強をしたいという希望があれば、選択することもできます。いろいろな選択肢を子どもたちに示して、その中から選択してもらうことも良いのかなと思います。

萱島讃良線の整備について

- ・ 萱島讃良線から第二京阪道路まで、起点は萱島駅ということになると思うが、早く計画決定をしてほしい。路線の住宅を更新することについて、取り壊しには補助が有効な手段になる。しかし、取り壊しの補助が来年なくなるとのことである。また、そこを追われた人はどうするのか、とりわけ低所得者についてはどうするのか。補助を含めて考えてほしい。
- ・ 萱島駅前の広場は面積を広くとってほしい。



広瀬市長

- A. 駅前広場については、萱島讃良線を整備する中で、その在り方について地域の皆さんと話をしながら作っていきたいと考えています。まちづくりについては、それぞれの地域の特性があり、需要や地域が望んでいるものと民間事業者との関係を考え、萱島の魅力を最大限発揮できるようなまちづくりをデザインする必要があると考えています。

地域協働協議会について

- ・ 地域協働協議会が6年前に発足しましたが、市長の考えとして、今後どういう地域協働協議会を育てていくのか、方向性、ビジョンについて教えてほしい。
- ・ いつ起こるか分からない災害について寝屋川市として、防災力を高める施策について教えてほしい。



広瀬市長

- A. 災害対応については、寝屋川市が独自の判断を下せるように、災害時は原則休校だが、自主登校として学校に連れて来ていただければお預かりする制度を導入します。

これから災害対応は本当に考えていく必要があります。特に今後 30 年以内の南海トラフ巨大地震の発生確率が 70%から 80%と言われており、いつ来てもおかしくありません。市の職員や常備消防、消防団で対応できる規模ではない災害が発生する可能性があります。

地域の皆さんが、いかに協力して人命救助を行うか考える時代になります。これからは、今までよりも、より現実在即した防災体制の在り方を検討していかなければなりません。

地域協働協議会を含めて、各地域のいろんな団体が今後 10 年経ったとき、地域の皆さんの協働がどこまで維持できるのかという課題があります。一部整理をしたり、力を入れていくところを分ける中で、皆さんの御意見をいただき、在り方というものを考えていきたいと思っています。

地域協働協議会について

地域協働協議会の活動の本来の目的は、地域の課題を地域の皆さんと協働しながら解決していくことだと思います。地域の課題は何なのかというと、高齢化が進んでいるということ。これまでできていたことが、ちょっとしたこともできなくなる。

今後の地域協働は、地域の課題を地域の皆さんで、元気な人で助け合うという方向性なのか、乗合いワゴンなどハード面の整備が進んでいくのか、市長の考えを教えてください。



広瀬市長

- A. 地域協働の在り方の中で、災害のことを本当に考えていく地域ならそれでも良いと思うし、日常生活が重要で地域で支え合う活動に注力することもよいと思います。

例えば、地域の方が自主的に水を確保できる防災井戸を地域協働の活動の中で掘っている地域もあります。

それぞれの地域の判断でやっていただくということは良いですが、できればソフト面をやっていただくことが理想だと思っています。

事件が多い原因について

他の地域の方から、寝屋川市は悲惨な事件が多いと言われた。確かに悲惨な事件が増えているように思うが、原因は何だと思いますか。



広瀬市長

- A. 寝屋川市に犯罪が起きる原因はいくつかあると思われます。

ハインリッヒの法則というものがあります。1件の重大な事案が発生する場合に、その母数として30件程の軽微な事案があり、その30件が発生するには300件程の軽いモラル違反が発生しています。その300件、30件が積もっていくと1件の重大な事案が発生すると言われてしています。

アメリカのニューヨーク市では重大な犯罪の対処のため、警察官の増員を図ったが解決しませんでした。そのため、ハインリッヒの法則に基づき、330件を積もらせないために、町の落書きを徹底的に消す活動を行ったところ、5年後には重大な犯罪の発生率が1/5まで低下したという実績もあります。

寝屋川市の犯罪の原因がそこにあるとするならば、行政が、基本となる330件をコントロールしていくことが重要となってきます。現在、取り組むためのプランを考えているため、もう少し待ってみたいと思います。

生活道路の改善について

南水苑地域の道路は整地が悪く、車椅子では自力で通れない状態である。車椅子でも安心して通れるような生活道路にしてほしい。



広瀬市長

- A. 10年後のシルバー世代の皆さんが本格的に不便になるであろうと言われる時代までの間に、まちづくりの点検をしていきたいと思います。

投票所までの送迎について

河北東地域は、高齢化率が高く、投票所までも距離があるため、投票したくても行けない事情がある。投票所を近所にしてもらうのは無理だと思いますが、マイクロバスを出すことはできますか。



広瀬市長

- A. 河北地域は先程申し上げた乗合いワゴンを実験導入させていただくので、そちらを利用してもらえればと思います。電話を掛けてもらえたら、家まで迎えに行かせていただきます。
乗合いワゴンは7人乗りのため、利用時間を分けてもらわないといけないかもしれませんが、投票所やショッピングセンター、バス停に行くだけではなく、友達の家に行くために利用してもらっても結構です。

地域活動の担い手不足について

近年、自治会や地域協働協議会など、地域で関わらなければならないことが増えてきている。70歳以上の方たちでなんとかこなしている現状であるため、ボランティアなどの担い手が必要と考えていますが、市の考えを教えてください。



広瀬市長

- A. 地域の担い手の皆さんのこれまでの10年、15年は団塊の世代の方が会社を辞めて、地域活動に参加されて、担い手も増えてきた時代でした。
これからの15年は、担い手の高齢化も更に進行すると思われます。地域協働の活動を維持するため、活動内容を精査し、これからのことを考えていきたいと思っています。

アルカスホールのピアノについて

アルカスホールでは市民向けや妊婦向けコンサート、コンクールが行われているが、子どもたち向けの催しがありません。数千万円もするスタインウェイの素晴らしいピアノがあるのに、子どもたちがその音色を聴く機会がないのはもったいないと思います。



広瀬市長

- A. アルカスホールのスタインウェイピアノに子どもたちが触れる機会が少ないと思うのは、私も同感です。現在、子どもの発表会がありますが、事情があってスタインウェイのピアノを使っていない場合もあります。

考えられる解決策としては、市が独自で費用をかけて、市内の子ども向けのコンサートを開いて、実感してもらう場を設けることです。確実に実現できるとは言えませんが検討したいと思います。

高齢者の見守りについて

ボランティアの現場であった事案ですが、訪問すると高齢者が倒れていた。すぐに病院に運ばれ助かったが、そのまま亡くなってもおかしくはなかったと医者に言われた。

現在の寝屋川市の施策では、そういった方を救えないのではないかと。非常ベル等で何かサインを送れるような施策を進めてほしい。



広瀬市長

- A. 非常の通報システムについては、希望者にお渡ししています。ボタン1つで救急に通報できるようになっています。

民生委員や地域の方にも見守り活動を行っていただいて、独居のシルバー世代や支援を必要とする方の見守りをいただいている状況です。しかし、全て確認しきれない場合もあると思われますので、しっかり見ていきたいと思っています。

2

地域協働協議会からいただいた主な御意見とその回答

草刈り及び花の植栽について

新しくできた住宅地の公園の草が延びるのが早くて、ボランティアだけでは草取りが大変なため、花を植えてもらうことはできますか。



広瀬市長

- A. 公園の維持管理(除草や清掃)について、近年は自治会及び老人会の高齢化や少子化による子供会の減少など、地域活動に苦慮されていると認識しております。

草木の繁茂については時期が同一のため、一斉に作業にかかることができず、また、予防することもできません。そのためお手数ですが、除草や樹木剪定についてはご連絡頂きましたら、順番に市で作業いたしますので、ご連絡の程よろしくをお願いします。

花の植付けにつきましては、「公園緑地サポーター制度事業」というものがあり、地域の方々に公園や緑地内の花壇にお花を植えていただくものです。一度活用についてご検討ください。

河川の土砂の撤去について

楠根川に土砂が大量に溜まっていて、大雨の時は洪水になる可能性が高いです。何年かに1回は土砂を撤去してもらっていますが、期間が長すぎます。



広瀬市長

- A. 市内水路、河川の土砂の浚渫(しゅんせつ:川底の土砂をさらうこと)につきましては、堆積土量を踏まえ、順次行っているところであり、楠根川についても土砂の堆積状況を調査し、土砂の堆積が多い所や自治会等からの要望に応じ適宜対応してまいります。

空き家について

持ち主はいるが、その建物に住んでいないため廃墟同然の建物の対応に苦慮している。雨漏り・野良ネコ・放火等が心配です。



広瀬市長

- A. 一般的な対応としては、市の職員が現地の状況を確認した後、建物の所有者に対して、市の条例に基づき、建物の定期的な見回りなど、適正な管理を行うよう指導しています。適正な管理が行われず、著しく保安上危険と思われる場合は、「特定空き家」と断定し、勧告、命令、代執行など、段階的に法に基づく措置を行っていきます。

タウンくるの増便について

163 号線より南側の河北・堀溝地域と寝屋川市中心部までのタウンくるを増便してほしい。



広瀬市長

- A. タウンくるの増便につきましては、乗降客数の兼ね合いもあり難しい状態ですが、シルバー世代や妊婦の方につきましては、公共交通の利便性の向上を図るため、乗合いワゴンを運行してまいります。

地域の担い手について

各地域団体が増え、担い手不足の中、このままではそれぞれの団体の活動が精一杯の状態ではコーディネーター的役割の人がいないと校区はまともならない。地域からの声を待つまでもなく、自治体主体でも良いから代表者を集めて5年先、10 年先を見据えた今後の在り方を検討してほしい。



広瀬市長

- A. 地域の担い手不足は、人口減少や少子高齢化による避けて通れない大きな課題であることは認識しています。第六次総合計画の策定に当たっては、現在の市民の姿と 10 年後のビジョンを見極めた上で、シルバー世代がいきいきと生活でき、また、子育て世代にとって住みやすいまちづくりを進めながら、地域の活動に若い世代の方も参加できる仕組み作りについて、地域の皆さんと共に考えていきたいと思っています。

4 西北コミュニティセンター

日時:令和元年9月5日(木)午後7時~8時 15 分

場所:寝屋川市立西北コミュニティセンター

参加人数:85 人

1

参加住民の皆様と広瀬市長の意見交換

これからも寝屋川に住み続けたいと思う施策について

今の小学生や中学生が5年後、10 年後の将来には、子育て世代となっていく。その世代がこのまま寝屋川市に住み続けたいと思う施策についてどのように考えていますか。



広瀬市長

- A. 来年4月には教育大綱を改定しますので、小学校・中学校の教育は大きく変わります。寝屋川市の子どもたちにはしっかりと考える力、議論する力、自分の考えをしっかりと伝えられる力を身に付けられるように、今後、新たなカリキュラムを実施していきたいと考えています。

計画策定に係る市民へのヒアリングについて

まちづくり等の計画を作る際に、障害者を含む市民へのヒアリングをされているのか疑問に感じます。市民が少しでも協力したいと思っても、市民が参加できる一部の委員会等では、連続 10 回参加することとなっており、参加するにはハードルが高くて尻込みしてしまいます。市民が意見を言える色々な機会を作してほしい。



広瀬市長

- A. 市民の皆さんの意見を聞くことは重要だと思っています。市の組織を少し変更して、寄り添う力と言っていますが、市民のニーズを細かく聞き取り、分析していく部門をつくります。

豪雨等への防災対策について

最近の豪雨では、床上浸水や家屋の流出により生活基盤を失うなどの被害が各地で起こっています。アートタウン及びアルプラザの西側にある、昔の用水路と思われる水路がどぶ川になっており、その上に蓋をして通路にしている。

大雨が降った時に、水はけを良くするためにどのように対策、改善していくのか教えてほしい。



広瀬市長

- A. 浸水対策は極めて重要だと考えています。災害には大きく分けて2つあります。1つは、南海トラフ巨大地震であり、30年以内に70%から80%の確率で起きると言われています。もう1つは、特に寝屋川市で起こり得るのは大雨による内水氾濫です。内水氾濫とは、下水がうまく流れずに溢れることをいい、これに対する警戒は極めて重要です。

寝屋川市は浸水対策に年間でかなりの費用を投じて、地下に水を貯める巨大な施設を整備しています。注意しないといけないのは、時間雨量40mmを超えるような瞬間的な豪雨です。長時間降り続く雨は、総雨量200mmを超えると下水の排水性能を超える可能性があります。

寝屋川市では、古川に雨水幹線を整備したり、学校に水を貯める校庭貯留施設の工事等をしながら、何とか浸水被害を食い止められるよう対策をしているところです。

市からの郵送物について

- ・ 市から届く封書には、申請等の締切りがあるものも多いため、例えば市章のところは浮き上がらせるなど、視覚障害者等に触ってわかりやすい封筒を検討してほしい。
- ・ 災害時用バンダナは実際に広げると思ったよりも大きく、視覚障害者にとって良かったのはタグがあり、折り目がわかるようになっていること。障害福祉課がよく関わって、作ってくれたと思います。



広瀬市長

- A. 市が送る書類等に点字などのサインをつけることは、これまでも課題だと思っていました。実施する方向で検討します。

点字ブロックについて

視覚障害者は、ヘルパーさんが付き添って外に出ることが可能になりましたが、本当は一人で歩きたい。視覚障害者は、いろいろな音や匂いで自分の位置や方向を確認しており、一人で歩くためには何より点字ブロックが必要です。

寝屋川市駅前では、バスに乗るため点字ブロックの上に並んでいる人がたくさんいます。また近くのスーパーでは、点字ブロックの上が駐輪場みたいになっていて、自転車が止まっていることもよくあります。点字ブロックがなかったら、視覚障害者は一人で歩けないということを知らせてほしい。

また、市がまちづくりをする時、点字ブロックを設置するときには、視覚障害者の意見をぜひ聴いてほしい。



広瀬市長

- A. 障害者の方も住みやすいまちとしていくために、広報ねやがわ等を通じて、市民の皆さんにお互いが助け合い支え合うという特集を組み、呼びかけをしようと思います。

新たなまちづくりをする中で、点字ブロックが離れているところもあり気になっています。御意見をいただきながら、点字ブロックの設置内容を考え、効率よく歩ける動線にしていきたいと思っています。

検診車について

シルバー世代が多くなってきました。そこで、コミセンに検診車を回して各コミセンで健康診断を行うという案はどうか。高齢社会が進んでいくと医療費がかさんでいく。それを未然に防ぐために、もっと市民の健康意識を高めるように、検診車を巡回させてほしい。



広瀬市長

- A. 健康増進についても、新たな取組を積極的に進めていきます。例えば、寝屋川市は、人工透析を受けている人の割合が、他のまちと比べて高い特徴があります。ただし、人工透析治療の原因となる糖尿病の罹患率は高くありません。もし重症化している原因が特定できれば、それを防ぐためのキャンペーンを行う必要があります。

寝屋川市は中核市になり、寝屋川市立の保健所ができました。保健所の所長は医師ですから、保健所や医師の知見を最大限活用しながら、地域の皆さんにダイレクトに役に立つ、使いやすい健康増進策を作っていきたいと思っています。

今後の総合センター等について

- ・ 総合センターが閉館になっていますが、今後どうなっていくのか聞かせてほしい。緑町にイオンがありましたが、現在は閉鎖となっています。この大きな敷地に図書館などの文化的な施設を作してほしい。
- ・ 旧イオンから伸びている 170 号線の陸橋の真ん中に穴が空いているため直してほしい。



広瀬市長

- A. 総合センターは調査をした結果、毒性の高いアスベストの存在が確認されており、今後の大規模地震の発生時を考慮し、建物を閉鎖しています。市議会で議論をしていただいた結果がもうすぐ上がってきますので、その報告を受けて今後の方向性を判断したいと思っています。

現段階で、アスベストの除去を行うと数十億円近いお金がかかり、今の規模での建て替えをすると、100 億円を超えるお金がかかるため、寝屋川市の財政規模では厳しいのが現状です。ただし、図書館は本市における最も重要な文化活動の拠点であるとともに、自習室も備えた施設なので、この代替の機能を、しっかり確保していきたいと考えています。

イオンの件ですが、市からも早く建て替えをお願いしています。公共施設という訳にはいきませんが、地元の皆さんから要望のあるスーパーを中心に、イオンとお話をさせていただきます。まだ確定ではありませんが、病院も含めて複合的な施設になるだろうとの報告を聞いています。

歩道橋については、枚方土木事務所へ補修を依頼しております。

香里園の西側地域について

香里園の高架の西側に自治会の集会場や交番を作してほしい。また、公衆トイレ、自由広場、避難場所も設置してほしい。



広瀬市長

- A. 現在、京阪の連続立体交差事業が進んでおり、交番の在り方等については、警察と大阪府で協議を進めています。公民館等の在り方については、地元の自治会の要望を聞かせていただきたいと思います。

子育て施設について

- ・ 子どもを連れて行く、リラットやこどもセンターは寝屋川市駅の方に集中しています。駐車場が少なく、自転車で来る前提となっているため、市役所を回っているバスをリラットにも止まるようにしてほしい。
- ・ 緑町のイオン跡地に子育て世代やシルバー世代の方が相談できるような市役所の出張所を設置してほしい。



広瀬市長

- A. リラットの中身は素晴らしいですが、場所については検討の余地があったかもしれません。本来であれば、みんなが使いやすい所につくるべきです。今後、公共施設の建て替えを検討する上では、各駅のターミナル化を考えていかないといけません。

しかし、あるものは使っていないといけないため、リラットはオペレーションを考えないといけません。例えば、駅前で預かってリラットまでお連れするなど、リラットまでの何らかのアクセスを市として考えていかないといけません。子育て世代の方に寝屋川市を新たに選んでいただきたいので、市民サービスのターミナル化など、皆さんがあつたらいいと思うサービスを考えていきます。

寝屋川市について思うこと

市名の由来となっている一級河川寝屋川については清掃等で以前に比べるときれいになったことは評価しているが、寝屋川市内を流れる用水路等の汚れが気になっている。若い人たちが誇りに思えるまちづくりを推進してほしい。



広瀬市長

- A. 一級河川寝屋川は、昔に比べると、寝屋川市駅前でアユが生息可能な水準まで水質が改善されています。

水路については、常時十分な水量が流れていれば問題ないが、水量が少ないと臭いや水質悪化の要因となる場合があります。

その対応策として、香里園駅西側駅前広場に井戸を設置し、その井戸から寝屋川第2水路等まで水を流していこうという計画を考えています。今後、様子を見ていただくと水量が変わっていくと思います。寝屋川市を水のまちとして売り出せるように、治水対策をしていきます。

寝屋川市の待機児童について

子どもを2人育てており、上の子が3歳、下の子が0歳で、本来2人とも保育園に預けたいところであるが、定員の問題で希望する園に預けることができない状況です。

そのため、上の子を認定こども園に1号認定の枠で預けたいと思っていたが、その枠も定員が2～3人と少ないため、結局、通常の幼稚園を選ぶしかなく、選択肢がない状況です。枠を増やしてもらうことはできないか。



広瀬市長

- A. 寝屋川市は、「待機児童ゼロプランR」に取り組んでいます。全国的に、4月1日時点で待機児童がゼロであると発表していますが、それ以降に子どもを預けて働きたいと思った人が現れた時点で、一旦、待機児童がゼロではない状態になります。しかし、寝屋川市は北河内で唯一、年度途中でも待機児童がゼロになっています。

ただし、希望する保育園に入れるかというところではありません。希望する園に、いつでも入れる体制を整えるとなると、膨大な予算が掛かります。年度の途中も含めて、希望する園に入所できるようにするには、民間の保育園も含めて、ものすごい数の余剰の施設を抱えなければならなくなります。そうすると、規模の小さな保育園、特に民間の保育園は経営が成り立たなくなるため、現段階で寝屋川市ができることとして、期間を通じてどこかに預けることができるようにしています。

また、これをいつまで続けていくことができるのかという問題もあります。本当は待機児童のことを考えると、市が費用を投じてでも希望する所に入ることができるようにしなければならないかもしれませんが、多額の資金を必要としますので、少しやり方を考えさせてほしいと思っています。

修学旅行の行先について

北小学校に孫が通っているが、修学旅行の行先が舞鶴になっている。以前は広島であったのに、行先が変わったのはなぜですか。戦争の悲惨さを学ぶことができて、やはり原爆のことを学んでほしいので、広島を選んでほしい。



広瀬市長

- A. 現状、修学旅行の行先については学校単位で決定しています。それぞれ行先の要望があるので、児童、保護者、学校の先生などで相談する中、各校で決定しています。皆さんそれぞれの思いがあって、その中でなるべく子どもたちの意向が聞ければよいと思っています。

中央図書館に残された図書について

私は木屋小学校で読み聞かせの支援をしています。去年から中央図書館が利用できないので、読み聞かせで使用する大型絵本を、枚方市の図書館2～3か所から借りている状況です。中央図書館は品揃えも良く、利用しやすくて便利でした。なんとか早急に、中央図書館の本を救い出してほしい。



広瀬市長

- A. 中央図書館に残されている本については、なるべく早く取り出したいと思っています。しかし、まだはっきりしていませんが、アスベストにより、本自体が汚染されている可能性があります。その場合、専門のクリーニングをかける必要があり、建物自体に入ることも困難な現状であるため、時間がかかっていることを御理解いただきたいと思います。

子どもたちや若い子育て世代の方に移住してもらうことを考えれば、子ども用の図書をまとめて用意しておく場所を造っていく必要もあると思っています。

シルバー人材センターについて

市長の話では、シルバー世代と若い世代の住み良いまちづくりがポイントになってくるというものがあった。若い世代からの税収でシルバー世代を支えるという話であったが、逆にシルバー世代が若い世代を支える形の一つに、シルバー人材センターがあると思われるが、シルバー人材センターの活用方法はどのように考えていますか。



広瀬市長

- A. 寝屋川市のまちはシルバー世代の割合が大きいので、これからはシルバー世代の方の力を借りないと地域が成り立たなくなります。シルバー世代の方がお持ちの技術や知識を活用するため、定年退職された方には積極的にお願ひして、互いに支え合っていくことが、寝屋川のまちには不可欠だと思っています。



学童教諭の離職について

- ・ 子どもを留守家庭児童会の学童に通わせているが、学童の先生の離職率が高いのではないと思う。年間 20 人程辞められて、入れ替わりが激しい。子どもたちが落ち着かないし、今まで築いてきた先生と子ども、親との絆はすぐには築けない。自分の子どもは人見知りが激しく、新しい先生にはなかなか心を開くことができなかった。
- ・ 学童の先生には長く勤めてもらいたいと思っている。寝屋川市の学童の先生への処遇・待遇は他市に比べたら悪いのではないか。改善してほしい。



広瀬市長

- A. 保育園や幼稚園が必要となる世帯は学童も必要であるため、留守家庭児童会（学童）についてもしっかり考えていきたい。現在、留守家庭児童会の指導員には、任期付職員として働いていただいています。職員の待遇を始め、どのような雇用形態が安定したサービスの提供につながるのか、コスト面を含め、今後、在り方を考えていきます。

歩きスマホ禁止条例の制定について

階段や駅構内で歩きスマホしている人が多く危険であるため、歩きスマホ禁止の条例を制定してほしい。



広瀬市長

- A. スマホのナビゲーションを活用されている場合もあるため、利便性と危険性のバランスが難しく、一概に禁止することは難しいと考えますが、非常に良い提言です。条例化すると話題になりますが、同時に批判もあるため、少し考えさせていただきます。

タウンミーティングについて

このようなタウンミーティングを継続的に実施してほしい。



広瀬市長

- A. 今後も開催する方向で考えていきます。

友呂岐中学校のブロック塀について

友呂岐中学校の道路側のブロック塀は改善されたが、南側のブロック塀はそのままとなっており、災害時に危険であるため改修してほしい。



広瀬市長

- A. 昨年6月の大阪北部地震後に教育委員会等が全ての小中学校のブロック塀を緊急点検しており、友呂岐中学校のブロック塀については、高さはあるが構造上問題ないと判断した結果であると考えています。

市道八坂松屋線の危険車両について

深夜に市道八坂松屋線を爆音で走る車が定期的であり、非常に危険であるため、市としてどうにか対処できないか。



広瀬市長

- A. 市として対応することは難しいですが、寝屋川警察と対応について協議してまいります。

西北コミセンの体育館へのクーラー設置について

西北コミセンでは卓球だけでも8つサークルがあり、非常に熱心に活動しているが、夏になると体育館が非常に高温となるため、熱中症対策の意味でもクーラーを設置してほしい。



広瀬市長

- A. クーラーについては、優先順位を付けて設置していきます。小学校の教室、特別教室への設置はようやく完了したため、次は災害時にシルバー世代も避難される小中学校等の体育館への設置を考えています。限られた財源を有効に活用できるよう考えていきます。

北小学校における防寒着の着用について

北小学校において防寒着の着用が認められていないため、改善してほしい。



広瀬市長

A. 今初めて聞きましたので、事実を確認して対処します。

廃プラごみの回収について

寝屋川市は古紙の回収が老人会、子ども会を含めると月に6回もあるため、古紙の回収はもう少し集約した方がいいのではないかと。逆に廃プラごみの回収が週に1回しかない。廃プラごみはかさばるため、金曜日の可燃ごみの日に廃プラごみも混ぜてゴミ出ししている状況も見受けられます。

古紙回収を減らし、廃プラごみの回収を増やしてほしい。



広瀬市長

A. 現在のごみ量は、既に新しく造った焼却施設の想定量をオーバーしている状況であるため、廃プラごみに限らず、今後ごみ全体の減量を市として大々的に行っていきたいと考えています。

利便性を高めればごみの量は増えてしまうため、ごみ削減の意識を高めることも含め、ごみ行政の在り方を検討させていただきます。



2

地域協働協議会からいただいた主な御意見とその回答

防災無線について

緊急スピーカーの音が聞こえにくいため、調整することはできますか。



広瀬市長

A. 防災行政無線の屋外スピーカーは市内 52 か所に設置しており、お住まいの地域によっては、周囲の環境や屋外スピーカーの位置により、放送内容が聞こえにくいところや音が大きく聞こえるところがあると認識しております。

そのため、防災行政無線の内容が聞き取りにくい場合等に電話で確認いただける「電話応答サービス」を行っております。電話番号 072-824-2037(電話通話料は自己負担になります。)

自然災害発生時等に防災行政無線でお知らせした内容は、市ホームページや市公式アプリ「もっと寝屋川」等でもお伝えしております。

京阪電鉄高架下への自治会館の建設許可(無償)について

京阪電車の高架事業で、香里南之町東自治会の公民館の立ち退きが問題になっている。京阪が高架にした所に公民館の無償建設許可をしてほしい。



広瀬市長

A. 香里南之町東自治会公民館の立ち退きについては、京阪本線連続立体交差事業ではなく、旧国道 170 号の整備事業(大阪府事業)の際に建物が支障となりますが、現在、旧国道 170 号の整備事業については、事業認可を取得しておらず、着手時期等が不透明な状況となっています。

また、現在、京阪電鉄により令和3年度末(予定)の完了を目指した高架下詳細設計が行われているところです。

詳細設計完了後には、京阪電鉄、大阪府、寝屋川市の3者で協議を行い、高架下で自治体ができる場所、面積などを決定し、高架下利用計画を策定します。

そのことから、香里南之町東自治会公民館の高架下への無償許可及び希望する場所への移転については、現時点におきましては、確約することは困難となりますが、庁内で行われる高架下利用に関する会議の中で検討してまいります。

児童公園の充実について

児童公園(松屋町第2ちびっこ老人憩いの広場)の設備を充実させてほしい。



広瀬市長

- A. 松屋町第2ちびっこ老人憩いの広場については、昭和60年度に設置され、約30年以上が経過しており、同様の公園等があるのは認識しております。
他の公園等についても、これまで遊具の色塗りなど、メンテナンスも実施してまいりましたが、老朽化が進んでいるのが現状です。
今後は、安全で安心して利用していただけるよう、市内の老朽化した公園や広場について、市民のニーズに対応して必要に応じた改修等を順次行ってまいります。



3

当日にお手紙でいただいた主な御意見とその回答

小中一貫教育について

- ・ 小中一貫教育について市長はどう考えておられますか。所信表明の中で四中校区に予定されている小中一貫校を、「メインのアイコン」「モデル校・旗艦校」とされていますが、もう少し具体的に教えてほしい。
- ・ 四中以外の校区は分離型の小中一貫校の位置付けになるとされていますが、この件について地域に説明はないのでしょうか。
- ・ 小中一貫校の建設費用を少しでも他の老朽化した公共施設に振り分けることはできないのでしょうか。お金をかけてデラックスな校舎にしなくても良いと思います。まずは古くなった施設をより良い状態にしてはどうか。



広瀬市長

A. 第四中学校区における施設一体型の小中一貫校については、寝屋川公園駅周辺のまちづくりの中核的な施設であり、メインアイコンとして位置付けることにより、シンボリックな役割も果たす施設としていきたいと考えております。

また、モデル校・旗艦校については、本市は、平成 17 年度から小中一貫教育を推進しており、小中一貫教育の先導役として、寝屋川方式の教育を実践し、牽引していく役割を果たす学校としてまいりたいと考えております。

小中一貫校における施設一体型と施設分離型の位置付けについては、小学校と中学校の一体的な運営を図り、9年間を見通した小中一貫教育を進めるため、全市的な小中一貫校への移行が必要であると考えており、進捗状況等に応じてお示ししてまいります。

施設の老朽化対策については、公共施設等総合管理計画に基づく個別計画、及び学校施設の長寿命化計画において検討してまいります。

5 東コミュニティセンター

日時:令和元年9月12日(木)午後7時~8時15分

場所:寝屋川市立東コミュニティセンター

参加人数:69人

1

参加住民の皆様と広瀬市長の意見交換

梅が丘小学校について

小中一貫校をお考えだと聞いていますが、梅が丘小学校は、校舎もまだ古くなっておらず、伝統校なので、ぜひともこの小学校を残してほしい。



広瀬市長

- A. 梅が丘小学校、明和小学校、第四中学校を統合し、施設一体型の小中一貫校を建設します。公立の学校では極めて珍しい取組です。

子育て世代を含む若い世代に、学研都市線の沿線に来ていただくためには、ハード面とソフト面の両方から魅力あるまちづくりを進める必要があります。ソフト面の施策として、新しい教育の在り方を提示し、寝屋川市で教育を受けたい、子育てをしたいと思ってもらえるように変えていきます。小中一貫校はそのためのメインアイコンとして位置付けています。

越境入学について

様々な事情により越境入学した場合の交通費について、教育委員会から補助は出ないとのことであった。精神的なダメージを負った児童の親の負担も軽減させることも考えてほしい。



広瀬市長

- A. 越境入学の問題については、色々なケースがあり事情も様々あると思います。何かできる方法があるかもしれませんので、詳細を教えていただければと思います。

市営住宅跡地の活用について

- ・ 明和小学校横に市営住宅があるが、駅から5分で立地が良い。この建物を再利用して子育てしやすい環境の整備に活用できませんか。
- ・ 大阪府にお願いして寝屋川公園にプールを造ってもらって、それを市営プールとして使うことはできないか。



広瀬市長

A. 市営住宅に関わらず、寝屋川公園駅周辺については、まだまだ大きな可能性があると思っています。学研都市線沿線のまちづくり、グランドデザインは、区画単位ではなく、もっと広い全体のまちづくりとしての絵を描こうとしています。そのため、JR西日本と交渉させていただいたり、ゼネコン、大手ディベロッパーを含めて話し合いをしているところです。

市営住宅は、市にとって大きな資産です。子育て世代に来ていただくため、全体のまちづくりを描く中で、様々な土地の問題について、積極的に解決させていただこうと考えています。グランドデザインを含め、事前に皆さんの声、御意見をいただきながら、まちづくりを進めていきたいと考えています。

寝屋川公園の活性化についても、プールとは別で考えているところがありますが、寝屋川公園と小中一貫校を核として、新たなまちづくりをしっかりとやっていきたいと考えています。

総合センターについて

総合センターが閉館しているが、何らかの方法で再開してほしい。



広瀬市長

A. 調査結果によると、今まで封じ込めていた毒性の強いアスベストが曝露された状態になっています。アスベストを全て除去する場合は数十億円、建て替える場合は100億円を超える資金が必要と言われています。寝屋川市内で1番規模が大きな中央図書館が閉館しているので、図書館の在り方も検討しなければなりません。

総合センターの今後については、議会からの報告を受けて秋頃には、私が最終決断させていただきます。これを一つの好機と捉えて、更に充実させていけるように場所の在り方も含めて、提案をさせていただこうと思っています。

東部地域のまちづくりについて

- ・ 東部地域のまちづくりについて、2軸化構想を表明され、地元の住民として大きな期待をしています。具体的に東部地域のまちづくりの全体としての構想や、市営住宅跡地の活用等どのような考えを持っていますか。
- ・ 密集地域では、消防車が到着するのに20分以上かかるケースがある。消防活動困難地域を想定して、地震、火災などに対応する緊急車両が入れるような防災地区や道路計画を作してほしい。地域の人々の命や生活を守る防災軸となる道路計画の必要性について、市長の考えを教えてください。



広瀬市長

A. 2軸化構想の学研都市軸のまちづくりの概要について、エリアとして考えられるのは、一つは星田駅から忍ヶ丘駅までです。道路を挟んだ反対側には、寝屋川公園の元々の都市計画予定地である公園予定地があります。まだ未実施地域ですが、その地域については、どういう形で公園として活用していくのか、それとも新たなまちづくりをするのか、大阪府や地元の皆さんと協議させていただきます。

もう一つは、寝屋川公園までの間の地域です。第四中学校の跡地の問題もありますが、駅前線から寝屋川公園まで、第四中学校の近隣のエリアやその西側には市営住宅があります。そうした地域も含めて、まちづくりをさせていただくことになります。

防災としてのまちづくりの在り方については、道路の計画を含め、ランドデザインの中で引き続き行っていくので少し考えさせてください。駅周辺から市営住宅を含めて、波及効果を考えながら、全体のランドデザインを描く中で、しっかりと検討させていただこうと思っています。

アスベストについて

私どもは建設業者の健康管理を行っている団体であるが、この2～3年でアスベストによる死亡者が4人でした。そのような状況の中で、市長は市内公共施設のアスベストの正確な情報を隠さずに公表してくれた。そこでお願いしたいのは、私どもの団体や大阪府内の団体と、建設関係部局と懇談してほしい。



広瀬市長

A. 市役所に来ていただければ、いつでもお会いさせていただきます。

図書館の在り方について

次の図書館の場所や大きさ、どのようなものにするかなど、おおまかな方針は既に決まっているのかもしれませんが、良い図書館を作ってほしい、ということを望んでいます。

小さな子どもと保護者が憩えるスペースや、学校に居場所のない子どもが安心して過ごせる場所、障害を持った人やボランティア活動をしている人がいきいきと活躍できる場所がある、そのような図書館を作ってほしい。

佐賀県の伊万里図書館では、古い図書館を建て替える際、市民と行政が一緒になって、市民の市民による図書館を作ったという経緯があり、全国から視察が来るくらい、良い図書館ができています。図書館を作る際には、市民と行政で一緒に造ってほしい。



広瀬市長

A. 御意見は参考にさせていただき、良い図書館を作っていきます。

今、寝屋川市は二つのまちづくりに投資をしていかなければなりません。若い世代の皆さんに寝屋川市にお越しいただいて、シルバー世代の皆さんのこれからの10年の生活を支える中で、図書館建設に莫大な投資は厳しい状況です。ただし、様々な可能性があると思いますので、臨時の図書館とは言え、しっかりとした規模で、最小の予算で最大の効果が得られるような図書館を造っていきたいと思っています。

本の読み聞かせについて

読み聞かせのボランティアをしています。第三者ではなく、両親が子どもに読み聞かせをすることで親子の絆が結ばれるのではないかと思います。親と子どもが接する機会を増やすことで、虐待の問題などを解消するためにも、親子で読み聞かせをすることを推奨したい。



広瀬市長

A. 両親が子どもに読み聞かせをするということは理想的で、本当に素晴らしいことだと思います。

寝屋川市内で通告、相談等も含めた虐待事件は、年間1,000件を超えます。虐待をしている親の中には、親自身がかなりの問題を抱えている、重篤なケースがあり、子どもに読み聞かせができる段階ではない人が実際おられます。

行政の果たすべき役割は、まず、命に関わる生きるための手だてを積極的に講じていくことと考えます。

できれば、地域の皆さんにお手伝いいただき、子どもたちを育てていくために、一緒にやらせていただければと思っています。例えば、シルバー世代の方を始め、ボランティアをしていただいた人に対しては、何らかのインセンティブを考えていこうと、内部で検討を始めているところです。

小中一貫校について

梅が丘小学校は、市内でも一番良い環境の小学校だと思うので残してほしい。今後、新しい教育の在り方を進めていくとのことですが、小中一貫校を作ることだけではないので、寝屋川の子どもたちはみんな一緒にあり、同じように大事にしてほしい。

3つの学校が一緒になると1,000人近い児童・生徒数となるため、市がこれまで校区審議会等で検討してきた、大規模な小学校をなくしていくという方向と逆の流れとなります。

今は小中一貫校よりも、図書館や総合センターのような市民要求の高い案件に全力を注いでほしい。



広瀬市長

A. まず小中一貫校に関しては、梅が丘小学校や明和小学校に何か問題があるからというものではないということを理解していただきたいと思います。

今後、更に人口が減ることで、バスの本数が減る、商業施設が撤退するなど、悪いスパイラルが続き、まちの規模はどんどん縮小していくことになります。学研都市線沿線、特に寝屋川公園を含めた地域のまちづくりを戦略的に行うことで、悪いスパイラルを逆回転させ、人口を増やし、ショッピングセンター、銀行、図書館等のサービスを充実させることも十分に可能であると思っています。

現在、本市では2軸化構想を進めています。京阪沿線と学研都市線沿線は寝屋川の背骨となる大変重要な鉄道軸です。京阪軸に加え、新たに学研都市軸をつくっていかねばなりません。そのため、現段階で一定のコストがかかっても、学研都市線沿線にしっかりとしたまちをつくる必要があります。寝屋川公園の整備も進め、若い世代の皆さんに、このまちで子育てをするという具体的なイメージを持ってもらう必要があります。担税力のある若い世代は、教育に関心が高いということがアンケートや統計で分かっています。それを踏まえ、小中一貫校という、他にはないしっかりとした教育ができる学校を、他市に先駆けてつくっていくことで、他市からの担税力のある新住民の誘引につなげていきたいと考えています。

教育の内容は当然充実させていきますが、まち全体の核となる魅力ある施設として、小中一貫校をしっかりとつくらせていただきます。同時に市内全域の小中学校の教育も全市的に改革していきたいと思っています。小中一貫校という形になれば、カリキュラムの変更や強化について、市や教育委員会の判断で行えるため、市全体の教育について考える良い機会になると思っています。

ごみの減量について

寝屋川市はごみの減量を推進しています。先ほど東寝屋川のまちの人口を増やしていくと聞きました。そうすると、ごみの減量どころか、ごみが増えていくことになると思います。ごみの減量をこれからどのように進められますか。



広瀬市長

- A. ごみ減量については全市を挙げて取り組ませていただきます。昨年の災害の影響で今年はごみが増えています。今後は、プラスチック関係も含めたごみの抑制に取り組んでいきたいと思っています。

国の動向としても、レジ袋等が制限されていくことは近々に迫っています。全体のごみの量の、何十%かを削減するという思い切った目標を設定して、取り組んでいきたいと思っています。

観光資源としての史跡の活用について

担税力のある若者の誘引について話がありましたが、寝屋川市には京都に関連がある太秦という地名があったり、茨田堤や仁徳天皇時代の史跡があるので、それをまちづくりの一つとして取り上げてはどうか。



広瀬市長

- A. 寝屋川市に色々な史跡があるというのは、とても良いことだと思います。しかし、それを取り上げてのまちづくりはなかなか難しいと思います。歴史に詳しい人だと寝屋川市は本当に魅力的なまちだと感じてもらえると思います。私も先日初めて知ったのですが、秦町には刀鍛冶屋敷跡があります。後鳥羽上皇の時代に御番鍛冶という制度があり、日本全国から名工を呼んで刀を打たせていたのですが、秦町からその刀鍛冶が出ていたそうです。そういうことから、寝屋川市は思っている以上に歴史のあるまちですので、これらを活用し、できる範囲でまちの魅力発信をやってみたいと思っています。

通学時における小学生の荷物について

孫が小中学校に通っているが、毎日の通学時に荷物の量が多く、私でも両手でようやく持ち上がるくらい重い。身体の成長にも影響があると考えため、改善してほしい。



広瀬市長

- A. この件については、私がやっているSNSでもご指摘いただいていることです。教育委員会としては、昨年から一定荷物を学校に置いて帰ってもよいということにしているそうですが、各校の対応に差異が生じているため、改めて、教育委員会から各校に徹底させます。
成長期の子どもたちが毎日 10kg 近くの荷物を持って登校することは問題なので、運用上どのようにするかの検討を指示している状況です。

寝屋川公園駅前のにぎわいについて

今年3月に東寝屋川駅から寝屋川公園駅に駅名改称が実施されたが、駅前には寂しいままである。まちおこしイベント等で駅前ロータリーを使うことはできませんか。



広瀬市長

- A. 地域の活性化は大切であると考えています。実施する場所が市の所管する場所であれば、是非とも相談してほしいです。まちを盛り上げていただくのは歓迎します。

梅が丘うぐいす公園について

梅が丘うぐいす公園では、地域のイベントを行っていますが、発電機で対応しています。ここに分電盤を設置してほしい。



広瀬市長

- A. 市内の公園でいくつか分電盤を設置しているところもありますが、市で設置しているものではありません。市では、設置の許可は出していますが、例えば地域協働協議会等の拠点として使用していて、設置を希望する場合はご相談いただければと思います。

学校教育施設の営繕について

人口急増期に急ピッチで建設・整備し、現在で築 40～50 年を経過した学校教育施設の経年劣化に対しては、耐震補強等を優先に対策を行ってきたと思うが、今後は校舎、体育館、給食調理棟の修繕計画を持った方が良いと考えるが、現在の状況について教えてほしい。



広瀬市長

- A. 教育施設等については大変重要であるため、計画的に予算を組み、しっかりと進めていきます。

小中一貫教育について

現在の小中学校教育は6・3制であり、小中一貫校にすることで9年制となり、様々な問題が発生するものとする。教育的観点から、子どもの発達にはどのような学校制度がよいのか、専門的な観点を入れ、検討及び検証を十分に行ってほしい。



広瀬市長

- A. 小中一貫教育は私立で実績を上げている学校もあるため、寝屋川方式の教育の在り方について、専門家を交えて検討中であり、制度のメリットをいかにしながら、新たな教育の在り方を考えていきます。

寝屋川市の教育目標について

寝屋川市は学力、心力、体力の向上を目標として掲げている。学力、体力の向上を目標とすることは一定理解するが、特に心力について、心という人間性にまで踏み込んで評価ができるのか。



広瀬市長

- A. 新たな教育の在り方として、寝屋川市の小中学校を卒業した子どもたちが、学力だけでなく自分で考える力を身に付けることができるような教育を考えています。現在、教育大綱の見直しを進めていますが、自分の力でしっかり議論する力、いわゆる論理的に考える力、教育のベースとなる力の向上に取り組んでいきたいと考えています。

災害時等における障害者への対応について

災害時の障害者の救助がどうなるのか心配であり、福祉避難所の設置・改善を考えてほしい。



広瀬市長

- A. 報道で知っている方もいるかもしれませんが、現在、災害時に支援を要する人を対象に障害者支援バンダナを配布していますので、活用していただきたいと思います。

障害によっては他の皆さんと同じ避難所では難しい場合もあるため、そのような場合は別の場所で休んでいただくことができるような対応をするように、指示しています。

要望書への市の対応について

自治会等で市に対して要望書を提出しているが、市の回答が遅すぎるのではないか。



広瀬市長

- A. 市役所の対応が遅いことについて、来年4月に機構改革を行う予定であり、市民の皆さんからの要望をお聞きする部署を整理したいと考えています。市民の皆さんがよく訪れる窓口のある1階部分について、在り方を考え直したいと思います。

そのような中、市役所職員の働き方も変わります。テレビ報道もされていますが、10月から全国初のフレックスタイム制を導入する予定であり、また、採用試験は筆記試験をなくし、面接のみを行い、コミュニケーション能力重視で採用していくことにしています。

これからはより一層、地域の皆さんと話すことが必要となってくるため、それらに対応ができる人材の確保に努めたいと思っています。

2

地域協働協議会からいただいた主な御意見とその回答

担当所管課の明確化について

各部署の担当区域の違いは縦割り行政の弊害により、上記のような処置対応の遅さにつながる第一の要因であると思うが、ここは〇〇課、こっちは△△室の担当だとはっきり区別・確認できるようにできないか。



広瀬市長

- A. 教育、土木、福祉など市役所で行う様々な業務は、その内容によって担当課が分かれております。担当課が分からない案件につきましては、企画二課(市民相談担当)に連絡いただきましたら、担当課を通じて対応させていただきます。

市職員募集のポスターの掲示について

市職員募集は現在回覧形式になっているが、ポスターの掲示を行うことはできないか。



広瀬市長

- A. 自治会で回覧していただいているチラシは、直接採用試験の対象者に訴えるだけでなく、回覧により、チラシを目にした家族や友人、知人による情報の拡散を期待しているものであり、また、裏面にフレックスタイム制の導入を掲載するなど、地域の皆さんへ市の施策をPRすることも目的の一つとしています。
- また、自治会へのPRとは別ですが、職員採用試験のポスターについては、試験対象者が多い大学等に配布し、直接の対象者である学生等が掲示されたポスターをもとに検索、応募してくれることを期待しています。

生活保護世帯について

生活保護世帯が増えているが、申請の受理基準をもっと厳しくする必要があるのではないか。



広瀬市長

- A. 生活保護受給世帯数は微増傾向にあるものの、生活保護受給者数は微減傾向にあります。また、審査基準については、生活保護法や国の通知に基づき実施しております。

なお、微増傾向の背景には、低年金・無年金の単身高齢者が預貯金の減少や病気等により生活に困窮されるケースが多くなっており、現在は高齢者世帯が半数以上を占めている状況にあります。

土砂災害警戒区域の解消について

平成 28 年に「土砂災害防止法」で土砂災害警戒区域が指定されました。平成 30 年の台風 21 号で避難勧告が出されたことで、寝屋川市民が知ることになりました。寝屋川市の指定区域は 40 か所にも及ぶと聞いております。

秦自治会関係では、川勝町の「秦共有墓地」と八幡台の「宗教法人八幡神社」の崖部分が対象となっています。両区域とも山を削って住宅開発がなされたことによるものです。

特に墓地はいつ崩れてもおかしくない状況です。大阪府が実施する急傾斜崩壊対策事業があり、資料もいただいておりますが、枚方土木の説明では、「自然がけ」が対象で「削られたがけ」は対象にならず、また、受益者負担金が必要とのことでした。

「安全・安心なまちづくり」と「防災元年」を掲げる市の基本方針を教えてください。



広瀬市長

- A. 現在、本市では、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(土砂災害防止法)に基づき、土砂災害警戒区域 42 か所、土砂災害特別警戒区域 41 か所が、大阪府から指定されています。

このような急傾斜地の崩壊対策は、原則として土地所有者が実施するものとなっていますが、山を削ったことにより、危険な状態になったのであれば、その原因者に対して、安全対策措置を取るよう求める民事上の妨害予防請求を行うことは一定可能と考えられます。

また、妨害予防請求が認められ、原因者に対して裁判所から安全対策措置を取るよう判決が出された場合は、原因者が予防措置をとることとなりますが、この場合にその原因者が履行しないときは、更に裁判所に申し立てることにより、皆さんが原因者に代わって擁壁等の安全対策工事を行い、原因者に対して工事費用の請求を行うことも可能であると思われます。

新宮池の防災について

西日本豪雨でため池が決壊して大きな被害を受けた広島県は、県内にあるため池の内 5000 か所を廃止する方針を決めたと報道されています。

秦財産区が所有する新宮池は農業用水として利用されていません。堤防敷きの里道は舗装されておらず、草刈りを道路課にお願いしています。また、里道の数箇所に穴が開き、土嚢をつめていただきました。

短時間大雨洪水等で池の水があふれると、下流域の住宅に甚大な被害をもたらします。新宮池の防災と合わせて、有効利用してほしい。



広瀬市長

- A. 新宮池は、いわゆる財産区財産であり、地域の皆さんの財産として秦財産区の方々により管理・運営が行われています。

財産区財産について、処分や他用途への転用を行う場合には、地域住民の総意に基づかなければならず、十分な調整が必要です。今後、秦財産区と共に考えていきたいと思っています。

秦・太秦地区まちなみ整備事業の推進について

秦・太秦地区の旧村の集落は、道が狭く消防車や救急車が入れないところが残っています。まちなみ整備事業の実施に向けた協議会発足を検討しているところですが、事業をより一層推進してほしい。



広瀬市長

- A. 道が狭く消防車や救急車が入れないなど、地域の皆さんが主体的に「地域の課題意識」を持って、まちづくりに取り組んでおられることは、大変有意義なことであると認識しております。

行政といたしましても、安全で安心なまちづくりへの取組について、柔軟に対応していきたいと考えております。

寝屋川公園駅周辺の商業施設等について

寝屋川公園駅周辺は、イズミヤがなくなったことで人通りも減り、買い物難民が増えていきます。せっかく駅名を新しくしたのに、活性化というイメージとは程遠い状況です。今後、市として、駅前開発に関して取り組む予定はありますか。

寝屋川公園駅前線の開通における、商業施設等の具体的な構想がどの程度進んでいるのか教えてほしい。



広瀬市長

A. 2軸化構想に基づき、学研都市沿線の「学研都市軸」のまちづくりを進めていく中で、特に寝屋川公園駅周辺についてはメインアイコンとなる小中一貫校や寝屋川公園と一体となった周辺のまちづくりを積極的に進めてまいります。

また、駅前に位置する東寝屋川駅前商店会につきましては、空き店舗の活用などを含む商店会の活性化について、商店会役員と協議を進めております。

寝屋川公園駅前線につきましては、令和2年4月の開通に向け進めており、打上高塚町土地区画整理事業区域内において、大阪病院やドラッグストアのココカラファインの誘致が決定しており、順次、建築工事に着手されます。

また、商業施設としましては、生鮮食料品スーパーの誘致が予定されております。



寝屋川公園駅前線完成イメージ図

6 東北コミュニティセンター

日時:令和元年9月19日(木)午後7時~8時20分

場所:寝屋川市立東北コミュニティセンター

参加人数:86人

1

参加住民の皆様と広瀬市長の意見交換

寝屋川市内の働く場について

寝屋川市は学校が多くあるが、学校を卒業すると市外へ転出する人が多いように感じる。それは、寝屋川市内に働く場が少ないからだと思うが、対策はどのように考えていますか。



広瀬市長

- A. 商業振興については、見直しをしようと考えています。寝屋川市域は狭く、製造業等の企業を誘致したくても工場用地がないため、事業を拡大するような企業は、郊外に移転してしまうこともあります。

これからは様々なビジネスの在り方があると考えています。学研都市線沿線は、第二京阪道路に面しており、高速道路で大阪市中心部まで30分で行ける利便性から物流には非常に適していると思います。しかし、市内でもまちの開発を規制している市街化調整区域があり、大胆に緩和変更を加える等で、物流等の企業に来てもらえるような施策が必要だと感じています。

新たなまちづくりを展開することも必要です。将来的には、衣食住を支える環境を整備し、インターネット系の会社などの起業を考えている若い世代の皆さんに来ていただくことも想定しています。アメリカの例では住む場所と働く場所がより近い環境を、良い環境としています。インターネットの会社は、大阪市内である必要はありませんので、しっかりと環境を整備していけば、新たな産業が生まれる可能性もあります。

これらのことを踏まえ、しっかりとやっていきたいと思っています。



留守家庭児童会について

留守家庭児童会について、寝屋川市は他自治体とは異なり、市が責任をもって先生たちを雇用しているという点が、他の自治体の方からはとても羨ましがられている。今後も、市で先生たちを雇用し続けてほしい。

良い先生が沢山いるので、その先生たちが大黒柱となって定年までいられるようにしてほしい。



広瀬市長

- A. 留守家庭児童会に関しては私も同じ思いです。市外から子育て世代に来てもらおうと思うと、この先も留守家庭児童会の更なる充実が必要です。今までは幼児教育の無償化ばかりが注目されてきましたが、留守家庭児童会についても、次の段階で考えていかなければなりません。なるべく時間と費用をかけず、ソフト面を充実させていく方向性で検討していきたいと思います。

子育て世代の転出について

寝屋川市に魅力がないから、若い世代の人の転出が多いように思いますが、寝屋川市では、どのような対策を考えていますか。



広瀬市長

- A. まずは、持ち家を買って住んでもらえるような人たちをいかに増やしていくかを考えています。昔は、寝屋川市に賃貸で住みサービスを受けて、住宅は枚方市など別のところで購入するということも多くありました。

担税力のある人に寝屋川市にお越しいただき、定住してもらえるようなまちづくりを提案していきます。

学研都市線沿線のまちづくりのメインアイコンとして小中一貫校の設置を進めるとともに、現在、寝屋川市では来年の4月を目途に市教育大綱の改定を進めているところです。小・中学校の教育の特色をいかに出していくかといった点も重要であると考えており、ディベートを中心に、物事を考える力をしっかりと身に付けていただけるようカリキュラムを見直します。秋田県方式の学習環境、学習指導内容を取り入れ、しっかりと指導していくことで、寝屋川市で教育を受けたい、子育てをしたいと思っていただけるよう、ソフト面・ハード面の両方から取り組んでいきたいと考えています。

ごみ問題について

ゴミステーションに市外の人がゴミを捨てることがある。その時は確認ができたので注意したが、タバコの吸い殻で火がついたままのもの、ライターにガスが残っているものも非常にたくさんある。このような問題は、寝屋川市単独だけでは解決できないため、枚方市、交野市、守口市等の近隣市と意見交換の場を持ってほしい。



広瀬市長

- A. 枚方市とは頻繁に意見交換をしているので、またお話をしたいと思います。ごみに関する行政の在り方についても見直していきたいと考えています。今年からクリーンセンターの新炉を稼働させていますが、想定よりもごみの量が多い状況です。災害の影響もありますが、将来みんなで削減していこうとする意識の醸成が大切です。

防犯カメラの設置について

先日、近隣の公園で怖い目に遭いました。周りの景色を見ながら、ウォーキングしている男の人を見ていたら、近くに寄ってきて「何を見ているのだ」と恫喝されました。後になって、広い公園なのに、防犯カメラが2台しかないと聞きました。あの時、一人しかいなかったのも、もし殴られていたら分からないままになっていたため、公園に防犯カメラを設置してほしい。



広瀬市長

- A. 寝屋川市はこれまで防犯カメラを 1,000 台近く設置してきました。今年度に約 500 台近く、来年度に更に 500～600 台の設置を予定しており、この数年間で新たに 2,000 台が設置されることとなります。人通りの多いところや通学路などを優先して設置していますが、なるべく死角がないように設置していきたいと思います。



香里園駅東口広場のエスカレーターについて

香里園駅東口バスターミナルのバス乗り場に上りと下りのエスカレーターがあるが階段がない。特に雨の日はバスに乗る人が、エスカレーターの上を走っていて危険である。階段を作るとお金がかかるため、取り急ぎ、下りのエスカレーターを停止して階段として使用してほしい。



広瀬市長

- A. 駅周辺の通路に関しては、京阪電鉄との兼ね合いもあるため、検討します。香里園駅東口については、線路の高架化と併せて考えていきます。

香里園駅西口広場の喫煙所について

香里園駅西口広場の喫煙所について、タバコを吸うエリアが明確でない。エリアを明確にさせていただき、タバコの副流煙をどうにかしてほしい。



広瀬市長

- A. 副流煙の問題は、香里園の皆さんからご指摘を多くいただいています。寝屋川市はこの春から中核市になり、寝屋川市で保健所を所管することとなったため、公衆衛生やたばこの問題については、積極的に市として取り組んで行けると思っています。香里園駅、寝屋川市駅を含めて保健所、健康部を中心に前向きに対応していきます。

支援学級の人員配置について

支援学級では、毎年のように4人中3人の先生が変わり、新しい先生と子どもが意思疎通できない状況がある。長い目で見て、支援学級の子どもの柱となる先生を1人配置してほしい。



広瀬市長

- A. 支援学級に限らず、保育園についてもそうですが、先生が変わることは子どもにはストレスだと思いますし、現状の人員配置について、手厚くないのかもしれませんが、先生と子どもの関係をしっかり作っていくことについては、一度実態を調査させていただいた上で、先生の配置について検討していきます。

東北コミセン体育館へのエアコンの設置について

市内に6か所のコミセンがある中でも、東北コミセンには多くの利用者がいます。災害時には避難所にも指定されています。熱中症対策のため、東北コミセンの体育館に寝屋川市のモデルケースとして、エアコンを設置してほしい。



広瀬市長

- A. 必要であることは認識しています。ただし、災害時ということを考えたら、一時避難所として指定されている、小学校の体育館にはエアコンがありません。子どもたちが生活し、災害時には避難所となる小学校、中学校の体育館にも付いていません。順次、小学校の普通教室に設置し、特別教室にもようやくエアコンの設置を終えました。限られた財源の中で、優先順位を付けてエアコンの設置を行っています。

長期間の停電を伴うような災害があった場合、シルバー世代の方が多いまちですから、体調を崩される人が多く出るかもしれません。エアコンの全設置は難しいですが、例えばエアコンのあるエリアを作り、シルバー世代の方、健康に問題がある方には、エアコンがあるところに移っていただいて、若い人・健康な人にはちょっと我慢していただくような振り分けを考えていかなければなりません。寝屋川市の財政状況等を考えると、全ての施設にエアコンを設置する余力があるわけではないため、優先順位を決めて災害対応を含めて対策させていただきたいと思います。

学校設備の災害被害について

去年の台風の被害により、学校設備で未だに修復していないものがあります。具体的には、子どもに人気のあるアスレチック遊具が台風以降ずっと閉鎖されている。災害により壊れたものは復旧してもらえるのか。子どもが楽しみにしている遊具なので、是非なんとかしてほしい。



広瀬市長

- A. 稼働していない遊具について、一度確認させてもらいます。市が設置しているものではなく、学校側で設置しているものかもしれません。もし、市で補修できるものであるなら、環境整備班という技術関係の班で対応します。学校側の標準設備として用意しているものではないと思いますので、一度調べさせてください。

自治会について

自治会という組織に入った場合のメリットは何かというと、住民同士の互助共済だと思っています。退会者が多い、加入率が低いという現状があります。所得の低い人や生活保護受給者が、自治会の会費が負担となって加入できない場合、自治会としての見守りも難しくなります。民生委員も見守りをしてくれていますが、地域の互助組織として、独居の人や高齢者の世帯に対して、適正な福祉というか、最低限の見守りを自治会でできないものか。

寝屋川市として、自治会の活性化を他市と違うビジョンで展開してほしい。



広瀬市長

- A. 自治会ですから、市でどうにかするとは申し上げられません。しかし、地域の皆さんには市から色々なお願いをしていると思います。

これまでの10年、15年は団塊の世代の方が定年退職を期に地域に入ってこられ、担い手も増えてきた時代でした。しかし、これからの10年、15年はシルバー世代の方々が多くなり、地域活動の維持が難しくなってきます。そのため、これまでの協働の15年とこれからの協働の15年は大きく在り方を変える必要があります。地域の皆さんに色々なお願いをしていることから、行政の役割についても、皆さんの声を聴きながら、これからの在り方について検討させていただきます。

第五小学校区の通学路について

第五小学校の通学路が三井団地の中心部にあるが、第二京阪道路ができたため、そちら方面からの抜け道となっており、とても危険である。現場の写真を撮っているので、確認の、対応を検討してほしい。



広瀬市長

- A. 通学路については、今回同席している教育次長がしっかり点検させていただきます。

都市再生機構と自治会との取組について

この度、独立行政法人都市再生機構(以下、UR)が、「多様な世代がいきいきと暮らし続けることができる住まい、まちを目指して」を目標とし、福祉事業として3つの取組を推進していくと謳っています。3つの取組とは、①団地の医療福祉拠点化②団地でつながるコミュニティの交流③安心して生活できる居住環境の整備です。寝屋川団地自治会もURと共同の目標として、2023 年達成を目指して取り組んでいきます。達成するために重要な①、③の取組に関しては、寝屋川市のサポートが必要になってくるかと思いますが、市の考えを教えてください。



広瀬市長

A. もちろんです。サポートの内容は相談させてもらいたいと思っています。団地の高齢化は寝屋川市でも課題と認識しております。大阪万博が開催されて、先進的な団地が建設され、良い環境に若い世代がたくさん住みました。しかし、その世代も 70 代、80 代になり、同時に建物も古くなっています。こうしたまちを活性化していくことは、寝屋川市にとって必要なことです。リフォーム等も含めて、若い世代に新たな住人として来てもらうための取組を進めています。

また、URは福祉についても、シルバー世代の方により長い期間住んでもらうため、空き家等を使いながら、地域の皆さんが便利になるような取組を進めておられます。それは、行政が進める取組の内容と近いと思っています。後は、行政が直接関わることができる内容と、側面支援をさせてもらう内容があると思いますので、高齢福祉の担当に皆さんの声を聴かせてください。

中学校の給食について

第六中学校に通っている孫が、広瀬市長になってから給食がとてもおいしくなったと言っていた。ありがとうございました。



広瀬市長

A. 実は、就任直後に中学生から手紙をいただきました。内容は自分の中学校の給食が美味しくないとのことでした。そこで私が開設しているSNS上でアンケートを取ったところ、500～600 人のうち、77%が美味しくないとの回答でした。

これはすぐに変えなければならないと、夏休み中に教育委員会と話をし、まずメニューや味付けを変更しました。同時に 11 月からは温かい給食も出せるようにしたいと思っています。給食センターを建てると、数十億円のお金がかかりますが、工夫で対応できる部分もあると思っています。財布の紐を締めながら、おいしい給食を提供し、満足してもらえるよう取り組んでいきます。

夏の猛暑対策について

現在、市役所と保健福祉センターにドライミストが2機設置してあるが、もう少し台数を増やしてほしい。ドライミストにも色々と種類があります。例えば、バス停の屋根にあるタイプでもいいと思います。人通りの多い所や公共施設に設置してもらおうと、憩いの場にもなると思います。毎年熱中症で亡くなる人がおられるので、対策を講じてほしい。



広瀬市長

- A. ドライミストは熱中症対策というよりも、温暖化対策のために実施しているという面もあります。しかしながら、市民の皆さんに喜んでいただけているのであれば、バス停への設置は難しいですが、公共施設における熱中症対策の在り方を考えていきたいと思います。

コミセンなどの公共施設には、熱中症対策にクールスポットを設けるなどの対策は進めていますので、併せて考えてまいります。

寝屋川市における多文化の共生について

寝屋川市や枚方市は、南米から来られた日系人の人口が、かなり多い地域だと思っています。労働力として外国人を受け入れる法律も制定されたので、寝屋川市にもますます外国人が増えてくると思います。市長は多文化共生社会についてどのようにお考えですか。寝屋川市で多文化共生のイベントを開催してはどうでしょうか。



広瀬市長

- A. 現在、市ホームページや各種手続において、多言語対応ができるように進めているところです。これから更に、多文化共生が進んでいくと思われるため、海外から移住してきた人が住んで不便と思わないようなまちづくりを行う必要があると考えています。

中央図書館の在り方について

子どもの考える力は本を読むことで養われると考えます。現在、寝屋川市内で子どもへの読み聞かせを行う活動をしており、自分の生きがいとなっています。去年の地震で、活動を支えてもらっていた中央図書館が使えなくなってしまう、非常に困っています。いつ頃に、中央図書館が使えるようになるのか教えてほしい。



広瀬市長

- A. 中央図書館は地震による損傷で、毒性の強いアスベストが露出してしまい、建物内に残っている 19 万冊の蔵書は一度クリーニングしなければならない状況にあります。問題はアスベストを除却し今の建物の修繕を行うと数十億円の経費、建て替えをする場合は 100 億円を超える資金が必要と言われています。少ないコストでより便利に利用していただけるような仕組みを考えています。

2軸化構想における図書館の位置付けについて

市長が提唱している2軸化構想において、図書館はどのような位置付けとなっているのか。



広瀬市長

- A. 若い世代、子育て世代の流入のために、子どもの図書館を整備するなど総合的に考えていきます。予算と時間の都合もあるため、もう少しお待ちください。

新図書館整備における市民参画について

図書館を新設する場合に、本が好きな私はどのように関わっていくことができるのか。



広瀬市長

- A. 九州で新しい図書館を整備する際に、市民の皆さんの意見を取り入れたことにより、来館者数が大幅に伸びた事例もあります。市民の皆さんから意見を聴取することも一つの選択肢として考えています。

公園の保守・管理について

夏に草刈りなどの清掃が行われている公園とされていない公園がある。また、近くにテニスコートがあるが、現在、フェンスは壊れて荒れ放題となっており、市境が近いため枚方市から勝手に人が来て遊んでいる状況である。公園が災害時に一時避難所になる可能性が十分あるため、公園の保守・管理を今後、どのように実施していきますか。



広瀬市長

- A. テニスコートの在り方については以前から課題となっているので、過去の経緯等を踏まえて考えていきます。公園の清掃は、状況を確認したいので、写真を撮って市公式アプリで送っていただければと思います。

道路の損傷について

三井団地から三井南町交差点に下りてくる道で片側がデコボコしており、大けがをした人もいるのでどうにかしてほしい。



広瀬市長

- A. 場所を確認させていただき、優先順位を付けて対応したいと思います。

移動手段の確保について

国松緑が丘地域は坂道が多く日常生活が困難である。安心して暮らせる移動手段を確保してほしい。



広瀬市長

- A. 是非とも、今後導入する乗合いワゴンを利用させていただきたいと思います。

2

地域協働協議会からいただいた主な御意見とその回答

市の東側地域のまちづくりについて

市の東側の地域(特に寝屋、大谷地区)について、市長は「力を入れる」と表明されていますが、具体的にはどのようなことを考えていますか。



広瀬市長

- A. 2軸化構想の1軸となる学研都市軸においては、大手ディベロッパーのヒアリングを踏まえ、潜在的に高いポテンシャルを有しているエリアを抽出し、駅を中心としたランドデザインを描いていきたいと考えております。
- 寝屋二丁目地区においては、既にまちづくり組織を立上げられていることから、地権者の意向を踏まえながら、大手ディベロッパーのヒアリング対象に取り上げ、市としても整備手法等を検討してまいります。

旧明德小学校における避難場所について

旧明德小学校が避難所に指定されているが、体育館が現在工事中で使用できないため、災害時にどこに避難すればいいのか。



広瀬市長

- A. 総合教育研修センター(旧明德小学校)の避難所のスペースは2階以上の研修室等を想定しております。

自治会活性化に向けた行政からの支援について

地域の互助組織として活動している自治会を活性化させるため、行政から応援してもらえることはありますか。



広瀬市長

- A. 市民活動振興室で各種補助事業を始め、様々な支援を実施しています。

防犯灯、道路照明について

地域の防犯灯、道路照明の担当課はどちらか、設置の考え方を教えてほしい。



広瀬市長

- A. 担当課につきましては、設置主体でそれぞれ異なり、自治会で設置いただいた防犯灯につきましては市民活動振興室、道路照明はそれぞれ(国道・府道・市道)の道路管理者となっております。また、自治会で設置いただいた防犯灯につきましては、費用及び電気代を市民活動振興室で補助していますので、防犯灯の設置をお考えであればご相談ください。

道路照明灯の設置の目的につきましては、夜間における道路・交通状況を把握し事故防止を図るため、設置するものです。

道路照明灯の設置の考え方につきましては、幹線道路で交通量が多く、安全確保が必要な道路(交差点・横断歩道)や駅前広場などの市街部の道路に、100ワット以上のLED・水銀灯などを設置するものです。

設置手順につきましては、自治会から道路照明灯の設置要望を頂き、現地調査を実施します。現地調査の結果、道路照明灯の設置が必要であると判断した場合は、設置工事を実施いたします。

はちかづき姫を活用した魅力創出について

寝屋地区は、はちかづきの里として寝屋川市として市内外にPRをされており、この地域の自然をいかした施設として、「(仮称)はちかづきミュージアム」を作っていましたか。



広瀬市長

- A. 寝屋地区の自然をいかした「(仮称)はちかづきミュージアム」については、「はちかづき姫」の民話が寝屋川の魅力創出において、重要であると考えておりますが、あらゆる観点から、「(仮称)はちかづきミュージアム」の設置が有効であるか等を検討してまいります。

寝屋川公園内の陸上競技場の活用について

寝屋川公園内の陸上競技場において、数年前まで市民大会の陸上競技が行われていたのに、その後、枚方市立陸上競技場にて寝屋川市民大会陸上が行われている現状ですので、寝屋川公園陸上競技場にて、今後、再開運営していただきたいです。予算的に困難ならあきらめますが、できれば現在の土のグラウンドからオールウェザーのトラックへ改装してほしい。



広瀬市長

- A. 寝屋川公園内は大阪府の管理・運営となっており、陸上競技場につきましては、公認トラックでないことから市民体育大会では枚方市立陸上競技場を使用していると認識しております。今後、大阪府に対して、施設の設備改善についての要望を進めてまいります。

通学路の危険に対する対処について

六中、十中、三井小の登下校時の安全確保のためにも、次の改善をお願いします。

- ・ 三井小学校前の道路補修と両サイド歩道の手入れ、学校前の車道は車輛通行が頻繁なため、車道に亀裂が多く破片が飛んで危険がある。
- ・ 三井小学校間向かい側の小山の裾と歩道の整備してほしい。



広瀬市長

- A. 現在、三井小学校前の市道三井が丘中央線においては、北側から南側(和食さと)方面に向け車道部の舗装修繕を舗装の劣化度合いにより進めており、平成30年度末には、第十中学校の信号付近から三井小学校交差点までの修繕を行いました。引き続き、現地調査を行い、舗装修繕を実施してまいります。
- また、三井小学校間向かい側の小山の裾と歩道の整備につきましても、現地調査を行い、必要に応じた修繕等(舗装修繕・草刈り等)を各所管において検討してまいります。

通学路の危険に対する対処について

三井が丘1丁目・5丁目・成田南町を通っている道路で交差をしている所があり、中央には点滅の赤い印がありますが、ここは六中・五小の通学路となっています。道路標識が解りにくく、道路上には”止まれ”と書いていますが場所が適切でなく、道路を渡るのに危険を感じます。



広瀬市長

- A. 当該箇所に係る安全確保につきましては、現状を確認し、警察等と連携を図りながら、カラー塗装の施工などの安全確保に努めてまいります。

今年度実施の採用試験について

今年度実施の斬新な採用試験について教えてほしい。



広瀬市長

- A. 人物重視として、筆記試験を一切行いません。
1次試験では、申込者全員に対して、若手職員が1対1で面談を行います。
2次試験では、申込者同士があるテーマについて議論するディベート形式の試験を行います。

地域協働協議会について

校区内には既存のいくつかの団体があり、活動内容も似通っている。地域協働協議会の設立趣旨を思い起こし、整理する必要があると考えます。



広瀬市長

- A. これまでの10年、これからの10年は、高齢化の進展や定年延長など、状況が異なることから、地域と行政の関わりや、協働の在り方について、各団体の御意見を丁寧に聴きながら、重複事業の整理や組織の再編について検討してまいります。

自治会館建設の補助金について

自治会館建設の補助金を見直してほしい。現行は新築に限られているが、会館取得へのハードルを下げ、中古物件購入の道も開いてほしい。



広瀬市長

- A. 物件の耐用年数や新築の購入補助とのバランスなど、中古物件の購入補助に関する課題について整理してまいります。

マイナンバーの活用について

各種行政データを紐付けすることで、行政サービスの効率化を図ってほしい。(例えば、国民健康保険の医療レセプトデータ、納税データ、年金受給データをマイナンバーを通じて紐付けするなど)



広瀬市長

- A. マイナンバー制度は、社会保障・税・災害対策の3分野について、分野横断的な共通の番号を導入することで、個人の特定を確実かつ迅速に行うことができ、行政の効率化、国民の利便性の向上、公平・公正な税・社会保障制度を実現するものであり、平成28年度1月から本格運用が開始されました。
- マイナンバーは、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律で定められた事務に限り利用することができることとされています。
- 本市では、国民健康保険の被保険者の資格に関する手続、生活保護の申請、児童扶養手当の認定請求などの事務でマイナンバーを利用しています。
- 今後も、法の趣旨を踏まえ、行政サービスの効率化を図ってまいります。

3

当日にお手紙でいただいた主な御意見とその回答

市駅前図書館について

「寝屋川市駅前図書館」は、床面積と蔵書数がやや僅少な以外は、申し分のない極上図書館ですが、若干ご改良いただきたい側面を痛感致しておりますので、ご採択をお願い申し上げます。

それは、3階で目下「ギャラリー」として活用されているお部屋を、「多目的コーナー」としてご変更いただき、現「ギャラリー」は2階真下(=2階南西隅)へのご移動賜りたいのです。



広瀬市長

- A. 現在、本市の図書館サービスにつきましては、平成 30 年6月の大阪府北部を震源とする地震の影響を受け、寝屋川市立中央図書館が休館となっていることから、他の図書館施設を活用し、サービスの低下を極力抑える取組を行っているところです。

今回の被害を受け、今後の本市の図書館行政及び図書サービスの在り方など、根本的な検討が必要となっており、公共施設の在り方等と併せ、また、市が掲げるターミナル化や2軸化構想と共に検討を進めなければならないと考えております。

したがいまして、ご要望の寝屋川市立寝屋川市駅前図書館の改修につきましては、本市の図書館の在り方とともに、今後詳細に検討をしていくべきものと考え、早急な対応は差し控えさせていただきます。

なお、ご指摘のアドバンス2号館2階の保留床につきましては、本市所有のものではないことから、多方面での検討も必要となることを申し添えます。



寝屋川市駅前図書館(キャレル)

留守家庭児童会について

このタウンミーティングで留守家庭児童会(以下「学童」)についてのお願いです。

- ① 公設公営のまま継続してください。
- ② 指導員を正規の公務員にしてください。いきなりで難しければ安定した雇用と所得が得られるように今まで以上に配慮してください。
- ③ 指導員の配置を増やしてください。子どもにより目が行き届く環境づくりになります。
- ④ 長期休暇の昼ごはんは学校の給食施設を利用して提供できるようにしてください。



広瀬市長

- A. ①運営形態につきましては、これまで公設公営で実施しており、今後も全国及び近隣自治体の動向を注視してまいります。
- ②指導員につきましては、任期付短時間勤務職員として雇用しており、経験や専門性に応じて3段階の賃金体系としております。処遇面につきましては、財源確保や効果等の検討を進めてまいります。
- ③指導員の配置につきましては、「寝屋川市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」に基づき配置を行っております。今後、担税力のある若い世代の誘引に向けて、留守家庭児童会の充実が重要でありますので、体制強化に努めてまいります。
- ④長期休暇における給食調理の提供につきましては、給食調理・提供の安全性やアレルギー対応、新たな経済的負担の発生などの課題がありますので、慎重に検討してまいります。

道路について

香里園方面への上り口、寝屋川警察の方へ上がる坂道で月3回位自転車、バイク事故があり、点滅灯をつけるか、170号から降車するのを止めるか考えてほしい。

道路の歩道と思う所に休日になれば車庫用に貸したり、歩道を歩くのにも石がボコボコ出て年配や学童がつまづく様子があり、きれいにセメントを塗り置石をカーブ上に多くつけてほしい。



広瀬市長

- A. 現在、押しボタン信号が設置されており、点滅灯の設置については、困難とされますが、道路管理者である大阪府へ要望してまいります。また、交通規制に関しましては、自治会からの要望や地域住民等の全同意が必要となり、所管は寝屋川警察となります。道路の修繕につきましては、現地調査を行い必要に応じた修繕等を検討してまいりますので、詳しい箇所をお知らせください。

美井町藤棚について

公園は、美井やまもも会(老人会)が年間を通じてラジオ体操の会場とし、また清掃・管理を請負、市民に気持ちよく使用していただけるよう心遣いをさせていただいております。

中でも「藤棚」については、近く的美井やまももふれ愛公園の「やまもも」の木と共に、美井やまもも会のシンボル・ツリーとして大切にし、藤棚については、見事に花房が垂れ下がるように、素人ながら手入れし、地域の名所になるよう意気込んでいるところです。



広瀬市長

- A. 藤棚については、現在の独立した柱と隣の藤棚を一体化する構造を検討します。

美井元町地域の浸水対策について

美井元町(境橋町)の浸水被害は、20 年ほど前は毎年、道路冠水、床下浸水、たまには床上浸水の被害があった所でしたが、関係者の対策の効果があって近年それらの被害は少なくなってきました。しかし、異常気象が日常化してきた時代になり、気象による被害が過去のものとはいえない時代になってきました。

特に短時間集中型ゲリラ豪雨はかえって増えているように思えます。

水路の排水効率を考えると今でも安心だとはいえません。それに対する対応策を考えてください、例えば公園下、駐車場下又は街路下などに遊水池を新・増設するか、又は国道 170 号線(府道八尾枚方線)下に敷設されている幹線水路に直接落とすなど、長期的、抜本的観点から考えられますよう要望いたします。



広瀬市長

- A. 美井元町地域におきましては、美井元町雨水調節池や美井調節池(府住)などの貯留施設の整備がなされており、今後におきましても、特定都市河川浸水被害対策法に基づく貯留施設の設置を行うなど、寝屋川流域総合治水対策において浸水対策のレベルアップを図ってまいります。

IV 参加者アンケート結果

お忙しい中、当日御参加いただいた市民の皆様に、タウンミーティングに関するアンケートをお配りさせていただきました。その集計結果をお伝えします。

アンケート結果は、次回のタウンミーティング開催の参考にさせていただきます。

Q1. あなたは、今回のタウンミーティングのことをどうやってお知りになりましたか。

設問	人数	割合
1. 自治会からの案内(回覧板など)で	81 人	25.6%
2. 家族・友人・知人から聞いて	31 人	9.8%
3. 公共施設にあるチラシを見て	16 人	5.1%
4. 広報誌を見て	109 人	34.5%
5. 市ホームページを見て	9 人	2.8%
6. その他	70 人	22.2%
合 計	316 人	100.0%

Q2. 市長が話した内容について。

設問	人数	割合
1. 聞きたい内容が多く満足	98 人	35.8%
2. 聞きたい内容があったのでやや満足	133 人	48.5%
3. 聞きたい内容が少なくやや不満足	36 人	13.1%
4. 聞きたい内容ではなく不満足	7 人	2.6%
合 計	274 人	100.0%

Q3. 1時間というタウンミーティングの時間について。

設問	人数	割合
1. 長すぎる	0 人	0.0%
2. 少し長い	6 人	2.0%
3. ちょうど良い	134 人	45.5%
4. 少し短い	116 人	39.3%
5. 短かすぎる	39 人	13.2%
合 計	295 人	100.0%

Q4. タウンミーティングの開催曜日と開催時間帯は、次のどれが良いですか。

設問	人数	割合
1. 平日の午前中(10 時～12 時)	22 人	7.3%
2. 平日の午後(13 時～16 時)	20 人	6.6%
3. 平日の夕方(16 時～18 時)	20 人	6.6%
4. 平日の夜(18 時～20 時)	150 人	49.7%
5. 土日祝の午前中(10 時～12 時)	19 人	6.3%
6. 土日祝の午後(13 時～16 時)	23 人	7.6%
7. 土日祝の夕方(16 時～18 時)	11 人	3.6%
8. 土日祝の夜(18 時～20 時)	37 人	12.3%
合 計	302 人	100.0%

Q5. 今回のタウンミーティングに参加して良かったと思いますか。

設問	人数	割合
1. とても良かった	121 人	39.3%
2. 良かった	150 人	48.8%
3. ふつう	26 人	8.4%
4. あまり良くなかった	9 人	2.9%
5. まったく良くなかった	2 人	0.6%
合 計	308 人	100.0%

Q6. 次回のタウンミーティングにも参加したいと思いますか。

設問	人数	割合
1. ぜひ参加したい	161 人	51.2%
2. 都合がつけば参加したい	149 人	47.5%
3. あまり参加したくない	4 人	1.3%
4. もう参加したくない	0 人	0.0%
合 計	314 人	100.0%

Q7. あなたの性別をお答えください。

設問	人数	割合
1. 男性	192 人	60.2%
2. 女性	127 人	39.8%
3. 答えたくない	0 人	0.0%
合 計	319 人	100.0%

Q8. あなたの年代をお答えください。

設問	人数	割合
1. 10 歳代以下	1 人	0.3%
2. 20 歳代	17 人	5.3%
3. 30 歳代	14 人	4.3%
4. 40 歳代	46 人	14.4%
5. 50 歳代	34 人	10.6%
6. 60 歳代	76 人	23.8%
7. 70 歳代	102 人	31.9%
8. 80 歳代以上	30 人	9.4%
合 計	320 人	100.0%

V 参考資料

1 “市長に本音で言い対話”PR用チラシ

広瀬市長に 本音で言い対話

タウンミーティングを開催します

広瀬市長が自ら地域にお伺いし、市民の皆さんと対話する「広瀬市長に言い対話（タウンミーティング）」を開催します。広瀬市長が寝屋川市のまちづくりについての考えやビジョンを語るとともに、市民の皆さんから直接、地域の課題や要望をお聞きします。出されたご意見は十分精査して今後の市政運営に生かしていきます。ぜひ広瀬市長とのタウンミーティングにご参加ください。

日 時	会 場
8月8日(木) 午後7時～8時	西南コミュニティセンター2階多目的室 (上神田一丁目30番1号)
8月22日(木) 午後7時～8時	西コミュニティセンター2階多目的室 (葛原二丁目7番1号)
8月29日(木) 午後7時～8時	南コミュニティセンター2階多目的室 (下木田町16番50号)
9月5日(木) 午後7時～8時	西北コミュニティセンター2階講義室 (松屋町20番30号)
9月12日(木) 午後7時～8時	東コミュニティセンター2階多目的室 (高宮新町32番2号)
9月19日(木) 午後7時～8時	東北コミュニティセンター2階多目的室 (成田町3番3号)

注意事項

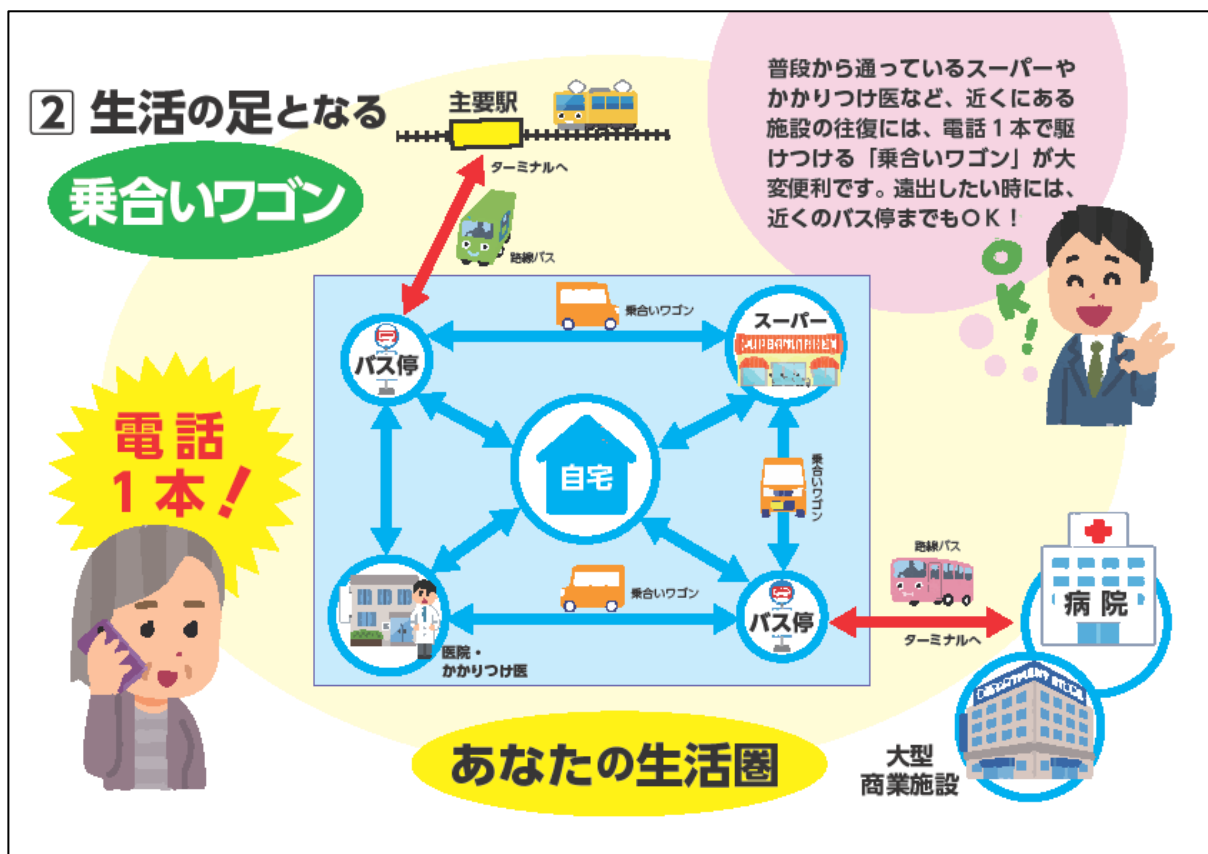
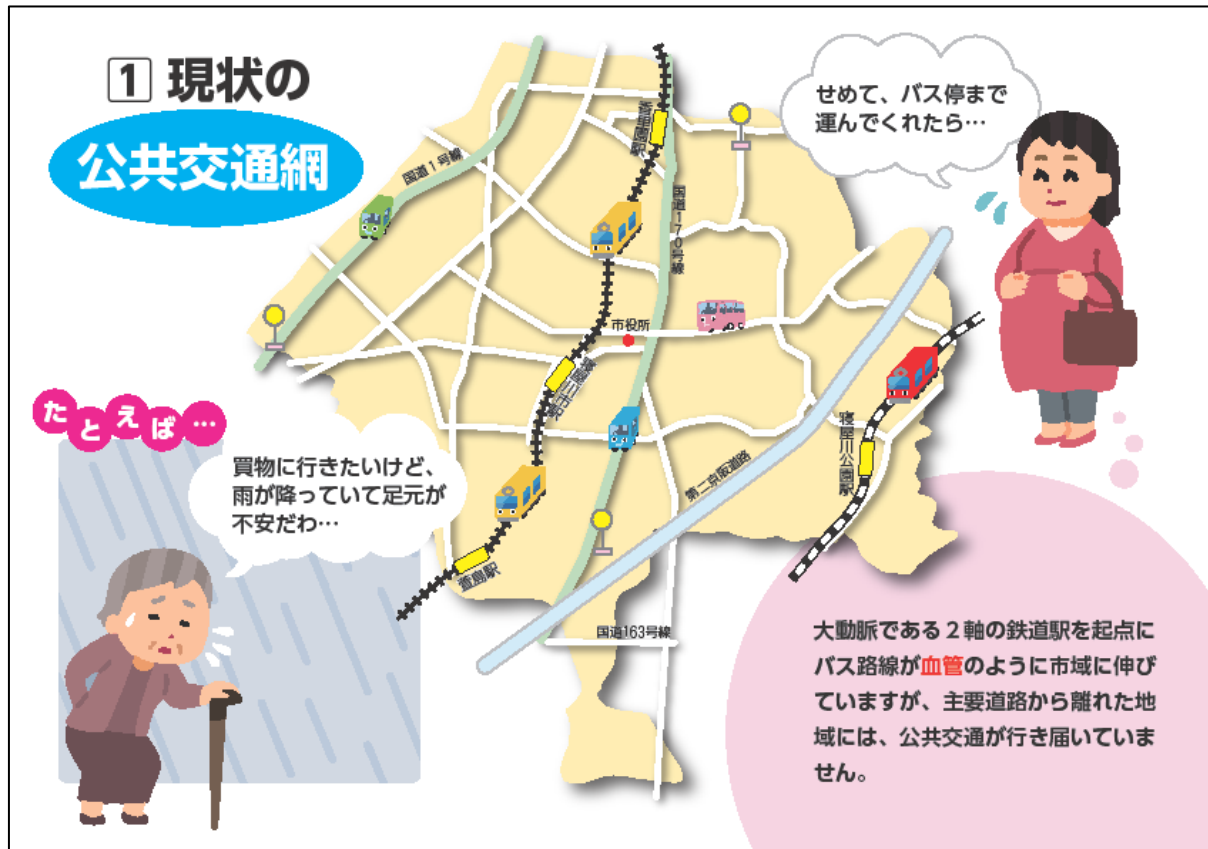
- 申込は不要です。自由にご参加ください。
- 会場には駐車場はありません。
- 保育室はないので小さなお子様のお入場はご遠慮ください。
- 会場の定員等の関係で、入場できない場合があります。
- 荒天時等は中止とする場合があります。

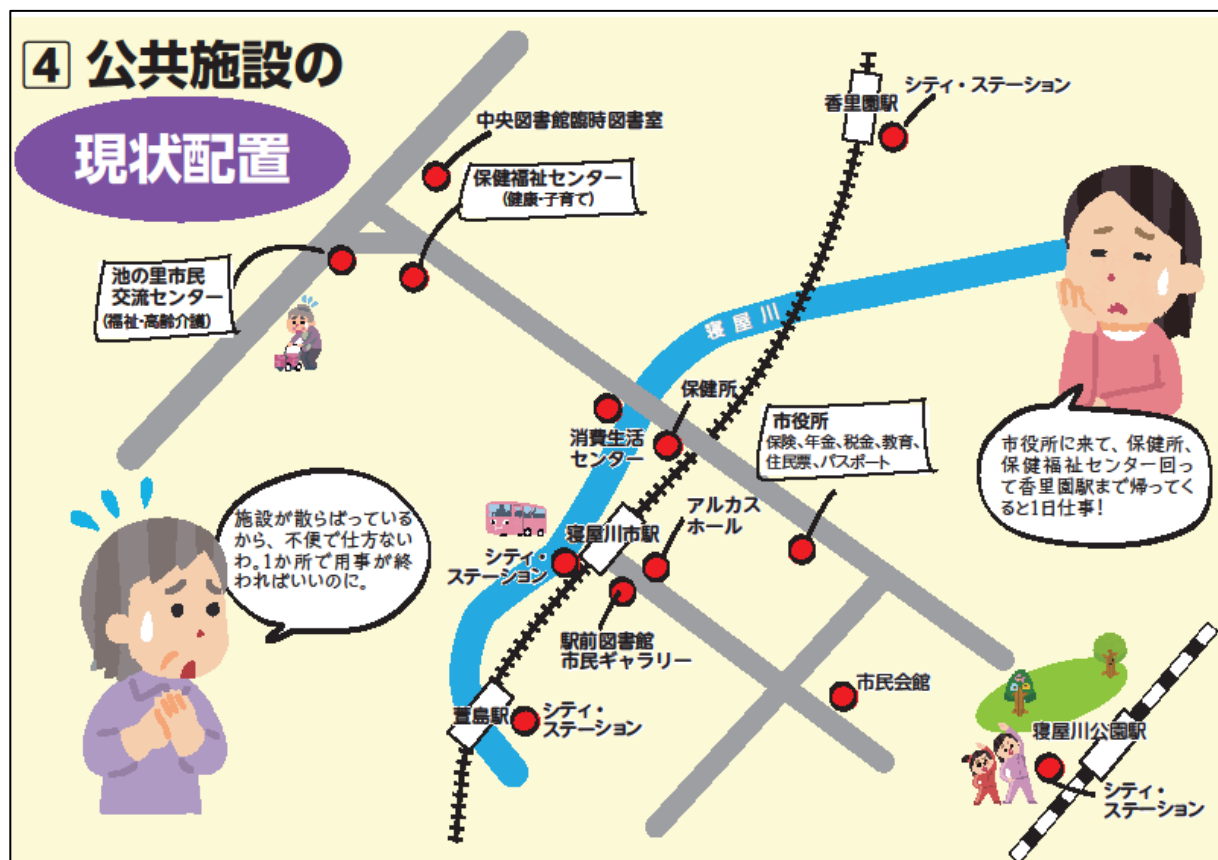


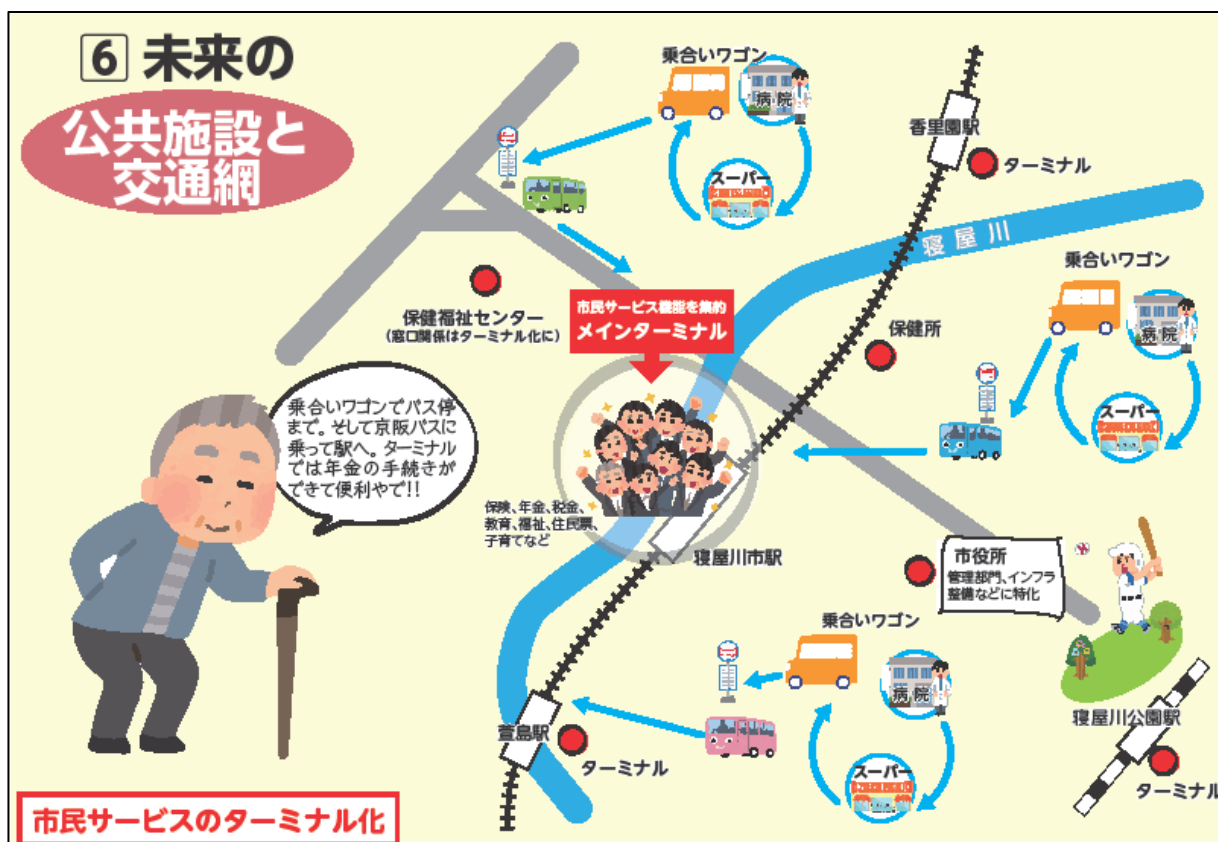
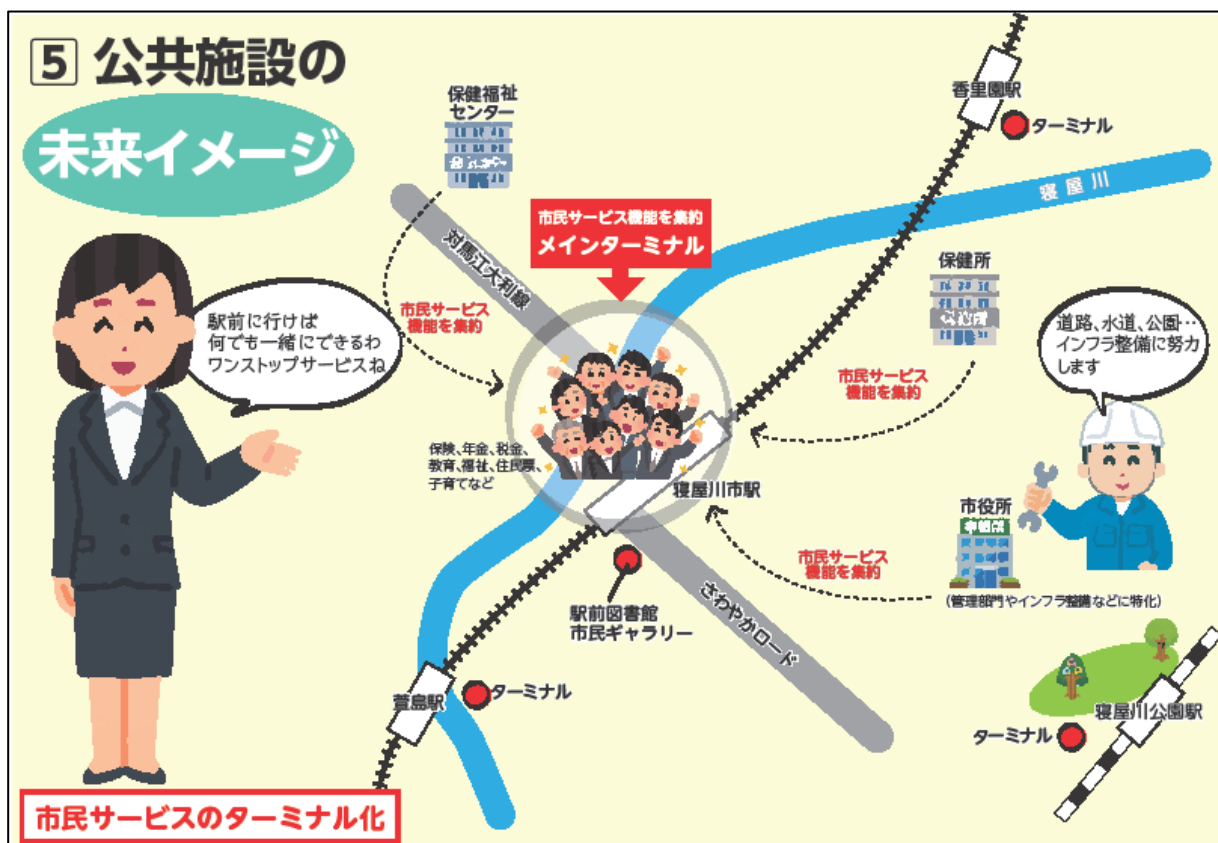


寝屋川市広報広聴課
☎072-824-1155

2 当日参加者にお配りした資料







広瀬市長に本音で言い対話(たいわ)
タウンミーティング 報告書
令和元年 11 月

発行・編集

寝屋川市 経営企画部 企画二課

〒572-8555 大阪府寝屋川市本町1番1号

TEL 072-825-2019(直通)

FAX 072-825-0761

URL <http://www.city.neyagawa.osaka.jp>

E-mail kikaku02@city.neyagawa.osaka.jp